

明治廿年四月

愛媛縣違警罪之骨 全

愛媛縣警官必携

廣道館發兌



035489-000-6

CZ-1738-99-02

愛媛県違警罪之骨

福富 恭礼/編

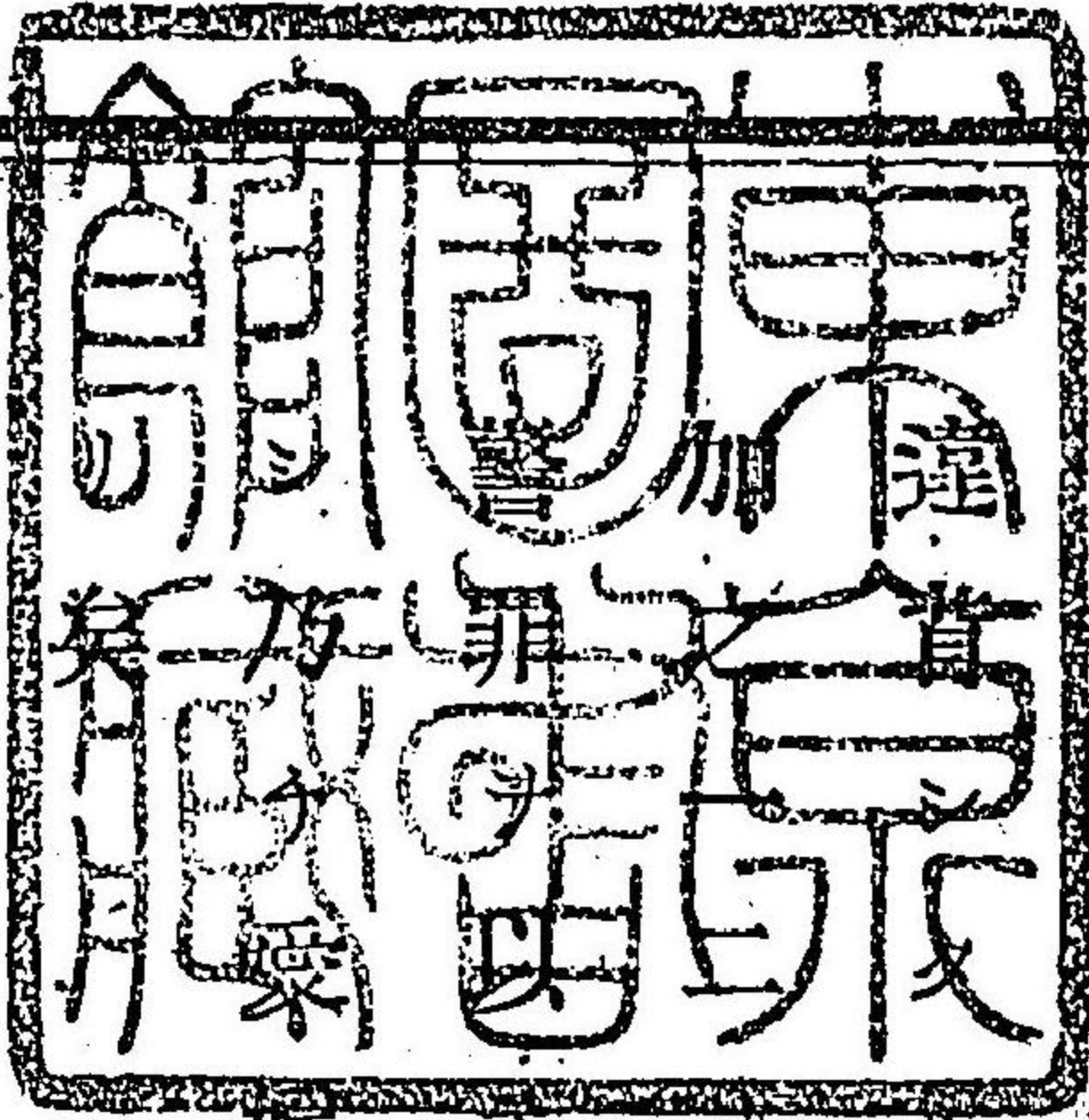
M20

BBP-0029



明治二十年五月六日内務省交付 3837

例言



一 本書ハ愛媛縣違警罪目中何規則或ハ令達ニ  
ル云々トアル諸規則令達ヲ編纂シ  
テ除クノ外皆本縣令ニシテ刑法違  
テ處罰セラル、諸規則令達ヲ編纂  
スル所ニ於テ、諸規則令達ヲ編纂  
スル所ニ於テ、諸規則令達ヲ編纂  
スル所ニ於テ、諸規則令達ヲ編纂

一 諸規則令達類ハ最モ脱漏ナキヲ勉メ且ツ廢  
改等ニ係ル分ハ特ニ注意加除セシト雖モ素  
ト野莽ノ編纂ニシテ万脱誤ナキヲ保シカク  
シ看客幸ニ容恕セヨ

CZ  
1738  
99-02

特15  
705

明治廿年四月

編者識

愛媛縣違警罪之骨目次

(違警罪第壹條第壹項參照) 產婆營業取締規則	一丁
(同第壹條第貳項參照) 藥舖試驗及ヒ營業取締規則	四丁
(同第壹條第四項參照) 水產取締規則	八丁
(同第壹條第五項參照) 富籤云々ノ達	廿一丁
(同第貳條第壹項參照) 田圃害虫豫防及ヒ驅除規則	廿二丁
(同第貳條第貳項參照) 入齒々抜口中療治接骨營業取締規則	廿四丁
(同第貳條第參項參照) 針灸術營業取締規則並ニ揉治營業取締規則	廿七丁
(同第貳條第五項參照) 河川水門堰樋道路ニ關スル達數件	卅二丁
(同第貳條第六項參照) 空發威銃規則並ニ有害鳥獸驅殺規則	卅五丁
(同第貳條第七項參照) 船燈信號器製造販賣規則外ニ照達一件	卅八丁

- (同第貳條第八項參照) 茶業組合準則 四十丁
- (同第貳條第九項參照) 墓地及ヒ埋葬取締規則並ニ墓地及ヒ埋葬取締細則 四十三丁
- (同第參條第壹項參照) 營業稅雜種稅規則ニ關スル稅率ノ調査規則 五十五丁
- (同同) 地方稅中營業取締規則 六十丁
- (同第參條第貳項參照) 非政談論議ニ關スル達 六十六丁
- (同第參條第七項參照) 官有地貸渡規則並ニ堤上堤腹仕用規則 六十七丁
- (同第肆條第壹項參照) 鼠取蠅取藥等ニ關スル達 七十四丁
- (同第肆條第貳項參照) 製藥免許手續 七十五丁
- (同第肆條第肆項參照) 河川内砂石使用ニ關スル達 七十六丁
- (同第肆條第七項參照) 諸興行ニ關スル達 七十七丁
- (同第伍條第壹項參照) 戶主旅行寄留ニ關スル達 八十丁

- (同第伍條第參項參照) 街路取締規則並ニ掃除心得 八十一丁
- (同第伍條第六項參照) 醫師取締規則 九十丁
- (以下刑法違警罪ノ分) ● 驛傳營業取締規則及ヒ細則 九十五丁
- 古物商取締細則 百廿七丁
- 彫刻營業取締規則 百卅五丁
- 官林取締規則 百卅九丁
- 金銀貨幣似寄ノ菓子製造ニ關スル達 百四十一丁
- 摺附木製造ニ關スル達 百四十二丁
- 河豚販賣ニ關スル達 全丁
- 路傍厠圍取締規則 百四十三丁
- 飲食物及玩弄品着色料取締規則 百四十五丁

- 貸座敷營業取締規則 百四十八丁
- 娼妓營業取締規則 百五十五丁
- 貸座敷及ヒ娼妓取締人心得 百六十丁
- 娼妓梅毒検査規則同附則 百六十三丁
- 種痘規則 百七十一丁
- 屠畜營業取締規則 百七十三丁
- 屠畜肉販賣取締規則 百七十六丁
- 斃畜剖割取締規則 百七十七丁
- 牛乳營業取締規則 百七十九丁
- 獸畜埋瘞及ヒ燒棄場設置方達 百八十三丁
- 製氷積雪販賣取締規則 百八十五丁

愛媛縣違警罪之骨

(改定違警罪第一條第一項参照)

●明治十四年甲第百五拾三號

産婆營業許可之者ハ更ニ鑑札願受クルニ不及並ニ從前之布達達等本文ニ抵觸之廉總テ廢止候事

産婆營業取締規則

第一條 産婆營業ヲナサント欲スル者ハ郡醫若クハ公立病院之試問ヲ受ケ其保証書ヲ添ヘ町村衛生委員ヲ經テ郡役所ニ願出免許鑑札ヲ申請クヘシ

第二條 前條許可ヲ得タルモノハ其門戸ニ左之雛形ノ如キ招牌ヲ掲

クヘン

緊二尺

第七

第 號

許免

產婆營業

何 某

第三條 改姓名若クハ轉居等ノ節ハ鑑札書換ヲ申受ケ廢業又ハ他府縣へ轉籍スル者ハ該鑑札ヲ還納スヘシ

第四條 鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難等ヨリ鑑札ヲ毀失シタルモノハ事由ヲ詳記シテ更ニ新鑑札ヲ申受クヘシ

第五條 疾病又ハ難産ニ罹ル者アラハ速ニ醫治ヲ仰クヘキハ勿論苟モ取扱上疑義ニ涉ルアルキハ醫師ニ就キ其指示ヲ受ルニアラサ

レハ施術スルヲ許サス

第六條 死胎分娩及四ヶ月以上ニシテ流産スルモノアルキハ本年甲

第百二十七號布達ニ依リ届書ヲ其家人ニ附與スヘシ

但墮胎ノ形跡アルカ又ハ疑フヘキ状況アルキハ速ニ最寄警察署

若クハ分署ニ通知スヘシ

第七條 妊婦ニ藥劑ヲ與ヘ若クハ賣藥其他藥方ヲ指示シテ之ヲ服用

セシメ又ハ灼艾等ヲ晉ルヲ許サス

第八條 弟子ト稱フルモノハ經驗ノタメ産家へ全行スルハ妨ケナシ

ト雖モ一已ニテ孕婦ノ取扱ヲサシムルヲ許サス

(第一條第二項参照)

●甲第百貳拾貳號明治十四年十月廿九日

明治九年七月乾第九拾五號布達相廢シ藥舖試驗及ヒ營業取締規則左  
之通相定候條此段布達候事

但シ從來許可ノ者ハ更ニ試驗ヲ請フニ及ハヌ並ニ本文ニ抵觸スル  
布達達等ハ總テ消滅ノ儀ト心得可シ

藥舖試驗及ヒ營業取締規則

第一條 藥舖ヲ開業セント欲スルモノハ別紙雛形ノ願書ニ履歷書ヲ  
添ヘ郡役所ヲ經テ願出試驗ヲ請フ可シ

但シ試驗ヲ請フハ年齡滿二十年以上ノ者タルヘシ

第二條 郡役所ニ於テハ前條ノ願書正本ニ履歷書ヲ添ヘ當廳ヘ差出  
シ問題ヲ請フ可シ

第三條 問題ハ衛生課ニ於テ檢定シ左ニ列記スル一學科毎ニ之ヲ封

シ郡役所ノ申請ニ應シテ之ヲ交附ス可シ

甲 算術 洋和適宜

乙 理學大意

丙 化學大意

丁 藥物學大意

戊 處方學大意

第四條 郡役所ハ衛生掛郡書記貳名以上ヲ以テ試驗者トナシ一問題  
ツ、封シ儘甲乙順次之ヲ受験人ニ授ケテ應答筆記セシメ一時ニ問  
題ヲ受験人ニ付スルヲ得ス

但シ試驗ノ節受験人ハ書籍又ハ拔書等ヲ携帯スルヲ許サス

第五條 試驗答記ノ時間ハ毎問二時ヲ超ルヲ許サス若シ此ノ時間内

答記スル能ハサルモノハ更ニ次ノ問題ヲ授クヘシ

第六條 試験全ク終ルノ後受験人ノ答記ヲ取纏メ郡長ノ添書ヲ以テ當廳ヘ差出ス可シ

第七條 前條ノ書類ヲ審案シ合格ノ者ニハ本縣假免狀ヲ附與スヘシ

第八條ハ十七年甲第廿八號ニテ本文之通改正

第八條 藥舖學脩業ノ者ハ松山醫學校ノ試験ヲ經其成績書及ヒ履歷書ヲ添ヘ願出ルルキハ内務省免許ヲ請フヲ得可シ

但シ試験ハ毎年二月五月八月十一月ニ施行スルヲ以テ其月五日迄ニ該校ヘ申出可シ

第九條 前條許可ヲ得タル者ハ其門戸ニ左ノ雛形ノ如キ招牌ヲ掲ク可シ

曲尺二尺

第七號
藥舖營業
内務省又ハ本縣免許 何 某

第十條 免狀ヲ遺失シ又ハ水火盜難等ニテ毀失シタルキハ其事由ヲ詳記シテ更ラニ新免狀ヲ申受ク可シ

第十一條 改姓名若クハ轉居等ノ節ハ免狀書換ヲ申請ケ廢業死亡又ハ他府縣ヘ轉居寄留ノ節ハ免狀ヲ還納ス可シ

但シ内務省免狀處持ノ者ハ他府縣ヘ轉籍スルモ免狀還納ニ及ヌ其旨届出ヘシ

第十二條 藥舖營業者ハ醫員ノ處方書ニ非スシテ自儘ニ藥劑ヲ調合



スルヲ許サス

第拾三條 家族雇人等ヲシテ藥品ヲ取扱シムルハ明治十三年一月第壹號公布藥品取扱規則ハ勿論總テ藥名量目等ヲ熟知スルモノニ限ル可シ

(第壹條第四項参照)

●甲第二十二號十九年二月十日

水産取締規則

第壹條 水産ノ蕃殖ヲ謀リ捕魚採藻ノ業ヲ保護スル爲メ此規則ヲ設ルモノトス

第二條 捕魚採藻等ノ營業ハ都テ其舊慣ニ據ル可シ

第三條 捕魚採藻場等既定ノ境界アルモノ若クハ營業上ノ慣所ト雖

モ自然不判然ナルヨリ障碍アルニ於テハ其利害ヲ調査シ更ニ之ヲ定ムルヲアルヘシ

第四條 慣所ナキ營業又ハ新ニ其場處發見スルカ或ハ新規ノ器械ヲ使用セント欲スルモノハ其關係村浦ニ於テ支障ナキヲ保証スルニアラサレハ許可セサルヘシ

但シ實地調査ノ上公益ト認ル場合ニ於テハ保證ヲ要セス特許スルヲアルヘシ

第五條 水産ノ蕃殖及公益上障碍アルト認ル時ハ假令營業許可ノモトト雖モ之ヲ停止シ又ハ區域及ヒ季節ヲ限ルヲアルヘシ

第六條 海面漁事ヲ大別スルヲ左ノ如シ

一 網漁 何種ヲ問ス網漁一切ヲ云フ

一八重竇立

一配繩漁

一鯨漁 海獸獵也此ノ部ニ屬ス

一釣漁

一雜漁 採介其他前種類中ニ編入レ難キモノハ都テ此部ニ屬ス

第七條 沿海村浦及ヒ諸島ヲ分テ左ノ水産區ヲ設ク

但シ河川ハ此ノ限ニアラス

第一 水産區 大内寒川三木郡

第二 同 小豆郡

第三 同 山田香川郡

第四 同 阿野鵜足郡

第五 同 那珂多度郡

第六 同 三野豊田郡

第七 同 宇摩郡

第八 同 新居周布桑村郡

第九 同 越智野間郡

第十 同 風早和氣温泉郡

第十一 同 下浮穴伊豫郡

第十二 同 喜多郡

第十三 同 西宇和郡

第十四 同 東宇和郡

第十五 同 南宇和北宇和郡

第八條 各水産區ニ於テ左ノ條項ニ基キ組合規約ヲ設ケ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

但シ時宜ニ依リ組合ヲ聯合スルヲ得尤モ此場合ニ於テハ更ニ聯合組合規約ヲ設ケ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

- 一 組合事務所ノ位置
- 一 會議ニ關スル規程
- 一 頭取及ヒ取締ノ權限
- 一 水産蕃殖及ヒ保護ノ方法
- 一 漁村維持ノ方法
- 一 魚市場或ハ魚問屋仲買等ニ關スル規程
- 一 營業上紛議仲裁ノ方法

一 違約者處置ノ方法

一 費用ノ賦課徴収及ヒ支出ノ方法

一 事務所ノ使用スル印章

一 前項ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第九條 各水産區ニ頭取一名取締一名以上ヲ其區内營業者ニ於テ互撰シ縣令ノ認可ヲ受クヘシ

但シ不適當ト認ルキハ再撰セシムルヲアルヘシ

第十條 頭取取締ノ任期ハ各滿一ケ年トス

但シ滿期再撰スルヲ得

第十一條 營業者アル各村浦ニ於テハ惣代人二名以上ヲ其村浦内營業者ニ於テ互撰シ郡役所ヘ届出ヘシ

但シ營業者少數ナル村浦ハ一名ヲ置キ或ハ隣村浦協議ノ上合併  
スルモ妨ナシ

第十二條 罽刺網及ヒ沖取網調議取トモ云フハ漁場何人ヲ論セス從來所用  
仕來ノ慣行アル漁場ヲ  
云フ去ルコ凡ソ五十町以内ニ於テ使用スルヲ禁ス

但シ五十町以内ト雖モ其漁場ノ承諾ヲ得テ營業スルモノハ妨ナ  
シ

### 第三章

第十三條 河川漁事ヲ大別スルコ左ノ如シ

一 網漁 何種ヲ問ス網漁一切ヲ云フ

一 築漁

一 瀬漁

一 釣漁

一 雜漁 前種類中ニ編入シ難キモノハ都テ此部ニ屬ス

第十四條 河川池沼及ヒ海口等ニ於テ爆裂藥及ヒ各種ノ注毒水族蕃  
殖有害

ナルモノハナリ用ヒ捕魚スルコヲ禁ス  
總テ含有ス

第十五條 河川及ヒ海口等ニ於テ毎年一月一日ヨリ六月三十日迄鮎  
漁ヲ禁ス

但シ普通ノ釣魚餌釣蚊  
頭釣ハ此限ニアラス

第十六條 伊豫國肱川筋喜多郡柚木村字作場渡ヨリ同郡村字柿ノ木  
瀬迄ノ間ハ該川ノ養魚場トシ一切ノ漁事ヲ禁ス

但シ時宜ニ依リ特許スルコアルヘシ

第十七條 伊豫國肱川筋幹支流ニ於テハ左ノ漁事ヲ禁ス

禁止

- 一 鵜使漁
- 一 懸鮎漁
- 一 瀬違漁
- 一 鵜竿及ヒ鵜繩鮎漁

毎年一月一日ヨリ十月二十日マテ禁止

- 一 引網漁
- 一 張網漁
- 一 立網漁
- 一 火振網漁

第十八條 伊豫國上浮穴郡所轄内面河川及ヒ隈川幹支流ニ於テ

ダシ魚ハ毎年四月一日ヨリ五月三十一日迄鮎魚ハ毎年十月一日ヨ

リ同月三十一日迄普通釣魚ノ外該漁事ヲ禁ス

第十九條 河川漁事取締上必要ナル場合アルキハ第八條第九條第十條ニ準シ組合ヲ設ケ頭取以下ヲ設置スルヲ得

第四章 採藻

第二十條 採藻ハ河海ヲ間ス海苔昆布天草荒和布馬尾菜鹿角菜海羅若和布肥藻等ヲ採取スルヲ總稱ス

第五章 雜則

第廿一條 漁業採藻業ヲ營マント欲スル者ハ所轄郡役所へ出願シ左ノ鑑札ヲ申受ケ營業者之ヲ携帯スヘシ

- 一 網漁ハ一帖或ハ一組毎ニ一枚

一 配繩漁ハ一具毎ニ一枚

一 八重簀立及ヒ築漁瀬張漁ハ一ヶ所毎ニ一枚

一 鯨漁ハ一切ノ漁具ニ一枚

一 釣及ヒ雜漁ハ一人毎ニ一枚

一 採藻ハ一人毎ニ一枚

第二十二條 大網及ヒ配繩鯨漁採藻等數人ヲ要シ使用スルモノハ雇

主ニ於テ証票ヲ製シ之ヲ雇人ニ附與携帶セシムヘシ

第二十三條 一個ノ漁具ヲ數人ニテ共有又ハ步合持等ヲ爲シ或ハ一

ノ場所ヲ限リ採藻ヲナスモノハ協議ノ上一名以上ノ總代ヲ定メ鑑

札申受クヘシ

第二十五條 改名轉居代替又ハ水火盜難等ノ爲メ鑑札ヲ毀損或ハ遺

失シタルハ其事由ヲ記載シ書換又ハ再下ヲ出願スヘシ

第二十六條 休廢業ヲナスハ鑑札ヲ添ヘ其旨所轄郡役所ヘ届出ヘ

シ

第二十七條 自家食料或ハ肥料ノ爲メ一時ノ小漁及ヒ採藻ヲナスモ

ノハ鑑札下附ノ限ニアラス

但シ營業者ノ妨害ヲナスヘカラス

第二十八條 此規則ニ違犯セシモノハ本縣違警罪第一條ニ依リ所分

ス

●甲第七拾貳號明治十八年六月六日

潛水器械ヲ以テ探介スルヲ禁ス

但シ違背スルモノハ本縣違警罪第壹條第四項ニ依リ處分ス

(第壹條第五項参照)

●明治十五年甲第百二十四號

近來社寺再建又ハ修繕其他種々ノ名義ヲ假リ組合或ハ講中ヲ結ビ周旋人ヲ四方ニ派遣シ強テ加入ヲ勸メ財物ヲ臙集シ鬪取ヲナサシメ富籤ニ類スル所爲ヲ以テ利益ヲ僥倖スル輩有之趣相聞ヘ右ハ不宜義ニ付今后一切不相成万一心得違ノ者有之ニ於テハ相當處分可及候條此

段布違候事

(第二條第一項参照)

●甲第十八號明治十九年一月廿九日

田圃耕作物害虫豫防及驅除規則別紙ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

〔田圃害虫豫防及驅除規則〕

第一條 田圃害虫ノ豫防及驅除スヘキ虫類ハ概テ左ノ種屬トス

蝗虫コウナグ 螟虫 蜂鹿子ウツシカ 椿象ツチカガ 苞虫ツトムシ 螟蛉 蛭蝻シヤクナリムシ 尺蠖

第二條 前條種屬ノ外地方ニヨリ田圃ノ大害ヲナス虫類ハ本則ニ基

キ豫防驅除スヘシ

第三條 第壹條第貳條害虫驅除ノ際其田圃ノ外小害虫モ共ニ豫防驅除スヘシ

第四條 豫防及驅除ノ爲メ常ニ毎戸長役場所轄内ナ一組合ト定メ

置クヘシ

但シ時宜ニヨリ數組聯合スルヲ得

第五條 豫防又ハ驅除ノ際毎戸長役場所轄内二三名以上ノ驅虫員ヲ設クヘシ

但シ其姓名ハ所轄郡役所ヘ届出ヘシ

第六條 害虫田圃ニ發生セシキハ其作人直ニ驅除ニ着手シ速ニ該地所轄戸長役場又ハ勸業委員ヘ告知スヘシ

第七條 勸業委員告知ヲ受ケタルキハ戸長役場ヘ急報スヘシ

第八條 郡役所ニ於テ速ニ其所轄内及ヒ比隣郡役所ヘ報告シ縣廳ヘハ急報スヘシ

第九條 害虫豫防及驅除ハ作人各自從事スヘキハ勿論ト雖モ若シ



蔓延ノ徵アリト認ムルキハ組合ノ全力ヲ以テ從事スヘシ

第十條 本則ニ關シ組合聯帶ノ費用ハ町村費ヲ以テ支辨スヘシ

第十一條 豫防及ヒ驅除ニ依ル細則ハ戸長及ヒ勸業委員ニ於テ制定

シ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第十二條 本則第六條及ヒ第九條ニ違背スルモノハ本縣違警罪ノ刑

ヲ以テ處分セララルヘシ

(第一條第二項参照)

●縣令第十五號

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則左ノ通相定メ來ル二月十五日ヨリ施行ス

但シ明治十六年甲第二十號全十七年甲第二十四號布達ハ本文施行

ノ日ヨリ廢止ス 二十年一月二十四日

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則

第壹條 左ノ營業ハ免許鑑札ヲ所持スルモノニ限ル

一入齒

一齒拔

一口中療治

例之ハ齒痛ニ際シ又ハ唇舌齒跟ノ如キ軟部ノ出血糜爛等ヲ

療スルニ附藥又ハ含嗽藥ヲ與フル如キヲ云フ

一接骨

第二條 他府縣ニ於テ營業許可ノモノ當縣下ニ於テ營業セントスル

ハ別紙書式ノ願書ニ修學履歷書及ヒ府縣廳ノ添翰又ハ免許証寫

ヲ添へ願出更ニ免許鑑札ヲ請ク可シ

第三條 營業者ハ左ノ雛形ノ門標ヲ掲ク可シ

豎曲尺二尺

横

第號 (免許鑑札ノ番號ヲ記スヘシ)

免許何々營業

氏名

木製

第四條 改姓名若クハ管内轉居等ノ節ハ鑑札書換ヲ申請ケ他府縣へ

寄留轉籍又ハ廢業及ヒ死亡シタルハ七日以内ニ鑑札ヲ還納スヘ

シ

第五條 鑑札ヲ亡失毀損シタルモノハ事由ヲ詳記シテ更ニ新鑑札ヲ

申受クヘシ

第六條 人ノ招キニ應スルノ外自宅外ニ於テ營業スルヲ許サス

但シ外出スルハ必ス鑑札ヲ攜帶ス可シ

第七條 明治十三年第七號布告藥品取扱規則第二類第三類ニ掲クル

毒劇藥ハ施術上如何ナル場合ト雖モ之ヲ用ルヲ許サス

第八條 本則第二條第六條第七條ニ違犯シタル者ハ本縣違警罪ニテ

罰セラル可シ

(第二條第三項参照)

●縣令第十七號明治二十年一月二十四日

針灸術營業取締規則左ノ通改正シ來ル二月一日ヨリ施行ス

但シ明治十四年甲第百五十二號布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

第一條 針灸術營業ハ免許鑑札ヲ處持スル者ニ限ル

一針治

一灸治

第二條 新ニ第壹條ノ營業ヲナサント欲スルモノハ別紙書式ニ據リ履歷書及ヒ師家ノ證書ヲ添ヘ願出免許鑑札ヲ受ク可シ

第三條 他府縣ニ於テ營業許可ノモノ當縣下ニテ營業セントスルハ履歷書及ヒ府縣廳ノ添翰又ハ免許証寫ヲ添ヘ願出更ニ免許鑑札ヲ受ク可シ

第四條 營業者ハ左ノ雛形ノ門標ヲ掲ク可シ

豎曲尺二尺

寸七橫

第 (免許鑑札ノ番號ヲ記ス可シ)

免許何々營業

姓名

第五條 改姓名若クハ管内轉居等ノ節ハ鑑札書換ヲ申受ケ他府縣へ

寄留又ハ廢業及ヒ死亡シタルキハ七日以内ニ鑑札ヲ還納ス可シ

第六條 鑑札ヲ亡失毀損シタルモノハ事由ヲ詳記シテ更ニ新鑑札ヲ

申受ク可シ

第七條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ主治醫ノ承諾ヲ經ルニ非サレ

ハ施術スルヲ許サス

第八條 施治者ニ藥劑ヲ與フルヲ許サス

第九條 人ノ招キニ應スルノ外自宅外ニ於テ營業スルヲ許サス

但外出ノ節ハ必ス鑑札ヲ携帯ス可シ

第十條 押へ灸又ハ神佛夢想杯ト唱フル無稽ノ妄說ヲ以テ灸治ヲ施

スヲ許サス

第十一條 本則第二條第三條第七條第八條第九條第十條ニ違犯シタル者ハ本縣警罪ニヨリ罰セラル可シ

●縣令第十八號明治二十年一月廿四日

明治十四年甲第百五十四號布達中針治ノ二字ヲ删除シ第五條揉治ノ下トモノ二字ヲハニ改ム

●明治十四年甲第百五十四號

揉治營業取締規則 針治ノ二字ハ縣令第十七號廿年一月廿四日達ニ依リ改正ニ付刪ル

第壹條 揉治營業ヲナサント欲スルモノハ郡醫若クハ公立病院ノ試問ヲ受ケ其保証書ヲ添ヘ町村衛生委員ヲ經テ郡役所ヘ願出テ免許鑑札ヲ申受ク可シ

第二條 前條ノ許可ヲ得タル者ハ其門戸ニ左ノ雛形ノ如キ招牌ヲ掲

ク可シ

第 號
免 許
何 々
營 業
何 某

第三條 改姓名若クハ轉居等ノ節ハ鑑札書換ヲ申受ケ廢業又ハ他府縣ヘ轉籍寄留スルモノハ該鑑札ヲ還納スヘシ

第四條 鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難等ニ依リ鑑札ヲ毀失シタルモノハ事由ヲ詳記シテ更ニ新鑑札ヲ申受ク可シ

第五條 揉治ノ治術ハ人ノ請求ニ應スルモノニシテ苟モ已レヨリ之ヲ勸メ強テ其術ヲ施ス可ラス

第六條 人ノ請求ニ依ルト雖モ其病症ノ如何ヲ問ス猥ニ施術スルハ

勿論疑義ニ涉ルコトアルハ醫師ニ就キ其指示ヲ受クルニアラサレハ  
ハ施術スルヲ許サス

第七條 人ニ藥劑ヲ與ヘ若クハ賣藥其他藥方ヲ指示シテ之ヲ服用セ  
シムルヲ許サス

(第二條第五項参照)

●明治十六年甲第五十三號

河川水門又ハ堰及埋樋等取設ノ義ハ從來其慣行アルモノ、外設置不  
相成等ニ候條若シ新設ヲ要スルモノハ其事由ヲ詳記シ近傍地景明瞭  
ナルノ圖面相添可願出此旨布達候事

●明治十六年甲第百三號

本年三月甲第五十三號ヲ以テ河川水門又ハ堰及埋樋等新規取設ノ義

ニ付及布達候處從來慣行アリテ現ニ設立アル者ト雖其有形變更(木  
造水門埋樋ヲ石造又ハ陶器或ハ土俵堰ヲ筋又ハ石垣ニシテ或ハ間敷ヲ  
變スル等渾テ仕様ヲ變更スルヲ云フ)スル場合ニ於テハ詳細ナル仕  
様帳及ヒ明瞭ノ圖面相添前以テ許可ヲ受クヘシ  
右布達候事

●明治十六年甲第九十四號

官費又ハ地方税ノ負擔ニ屬スル道路橋梁海堤防水列等ヲ協議費又ハ  
自費ヲ以テ修理セントスルハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ協議費又ハ自  
費ノ負擔ニ屬スル道路橋梁及ヒ河海堤防水列若クハ用惡水路等ヲ修  
理スルハ許可ヲ受クルニ及ハストイヘ凡舊來ノ仕様變更又ハ新設ニ  
屬スルモノハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ右布達候事

●甲第八十七號十九年七月二日

明治十六年甲第九十四號ヲ以テ官費又ハ地方稅及ヒ自費負擔ニ係ル道路橋梁河海堤防水芻若クハ用惡水路壕池等修繕又ハ變更新設之義ニ付及布達候處民有地一筆内幾部分ヲ用惡水路及ヒ壕地トナシ別筆トナサ、ルモノハ本地ノ地種地目ニ据置キヘク筈ニ付自今出願ニ不  
及別筆トサスカ又ハ全筆變換ニ係ルモノ並ニ從來ノ水利ニ關係アルモノハ當廳ノ許可ヲ受ク可シ

(第二條第六項參照)

今般空發並ニ有害鳥獸驅殺規則左ノ通改定本年七月一日ヨリ施行ス但從前ノ達指令等本文ニ抵觸ノ分ハ消滅候義ト可相心得右布達候事

空發威銃規則

第一條 空發威銃ハ田畑等ニ害ヲ爲ス鳥獸ヲ威壓スルノ具ニ付彈丸ヲ込メ候儀ハ決シテ不相成モノトス

第二條 空發威銃ノ期限ハ六ヶ月以内トス

第三條 空發威銃出願致度モノハ有害鳥獸ノ種類並ニ其害ヲ爲ス景況概略ヲ書載シ處轄郡役所ニ願出免許鑑札ヲ申受ヘシ

但鑑札遺失等致候ハ、其旨速ニ所轄郡役所へ届出ヘシ

第四條 假令免許ヲ得タル者ト雖モ居村限リニテ他村ニ於テ獵リニ發砲候義ハ一切相成ラサルモノトス

但他村ニ田畑等所持ノ者ハ此限リニ非ス

第五條 發砲ノ節ハ必ス免許鑑札ヲ所持致シ何人ニ限ラス一見セシ

ト請フ者アルハ直ニ之ヲ示スヘシ

第六條 免許ヲ得シ本人ノ外假令一家族ト雖モ取扱不相成モノトス  
但鑑札ハ賣買若クハ貸借スルヲ得ス

第七條 丁年未滿ノ者銃砲用方ヲ知ラサルモノ及ヒ白痴風癲等ノ者  
ヘハ鑑札下附セサルモノトス

第八條 右免許鑑札限日過去リ候上ハ其効ナキモノトス  
有害鳥獸驅殺規則

第一條 鳥獸ノ田畑等ニ害ヲ爲ス殊ニ甚シク不得止節ハ一ヶ月以内  
ヲ限リ詮議ノ上免許スルヲアルヘシ

第二條 右免許ヲ得ント欲スル者ハ其願書有害鳥獸ノ種類並ニ其害  
ヲ爲ス景況概略ヲ書載シ處轉郡役所ヘ願出免許鑑札ヲ申受クヘシ

但砲殺シタル鳥獸ヲ他ニ賣渡スヲ得ス

第三條 願書ヘハ(和)銃何々(和銃ナレハ玉目洋銃ナレハ其銃名若  
シ銃名等分明ナラサレハ其玉目等ヲ  
記)其用ユル處ノ銃名ヲ記載スヘシ

第四條 發砲ノ節ハ必ス免許鑑札ヲ所持致シ何人ニ限ラヌ其鑑札ヲ  
一見セント請フ者アルハ直ニ之ヲ指示スヘシ

第五條 免許ヲ得シ本人ノ外假令一家族ト雖モ取扱不相成モノトス  
但鑑札ハ賣買若クハ貸借スルヲ得ス

第六條 假令免許ヲ得タルト雖モ居村限リニテ他村ニ於テ猥リニ發  
砲疾義ハ一切相成ラサルモノトス

但他村ニ田畑等所持候者ハ此限ニ非ス  
第七條 丁年未滿ノ者銃砲用方ヲ知ラサルモノ及ヒ白痴風癲等ノ者

ハハ免許ヲ與ヘス

第八條 右免許鑑札ハ限日過去候時ハ其効ナキモノトス

第九條 左ニ列記シタル場合ニ於テハ發砲ヲ禁ス

一銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一禁獵制札ノ場所

(第二條第七項参照)

●遞信省令第拾九號明治十九年七月廿三日

船燈信號器製造販賣規則

第一條 船燈檣燈發火信號器星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭信號焰管轟彈ヲ製セントスル者

ハ其管轄廳ヲ經テ製造品見本差出シ遞信省之許可ヲ受ク可シ

第二條 發火信號器ノ許可ヲ請フハ製造人又ハ代理人各種共拾箇

以上ノ見本ヲ携帶シテ遞信省ノ試験ヲ受クヘシ但シ試験入費ハ出

願人ヲシテ負擔セシムヘシ

第三條 遞信省ハ船燈發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルハ其管轄

廳ヲ經テ製造免許ヲ下附スヘシ

第四條 免許製造ノ船燈發火信號器ハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼

付スヘシ

第五條 免許製造ノ船燈發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳

ノ許可ヲ受ク可シ但シ免許製造人ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ非ス

第六條 船燈發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受タル者ハ各其氏名

製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且ツ其製造所販賣所ニハ

看板ヲ掲ク可シ



第七條 免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換ヲ願出ヘン但シ其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納ス可シ

第八條 船燈發火信號器製造人ノ員數ハ遞信省ニ於テ之ヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ増減スルヲ得可シ

第九條 遞信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其製器ノ適否ヲ監査シ場合ニ依リ之ヲ實試スルヲアルヘン

第十條 不合格ノ製器ハ監査官吏ニ於テ其改造ヲ命シ或ハ販賣若クハ使用ヲ停止スルヲアルヘン

第十壹條 不合格ノ船燈發火信號器ヲ製造又ハ販賣スル者アルハ遞信省又ハ地方廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルヲアルヘン  
第十貳條 第四條第五條ヲ犯スモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●甲第百廿二號十七年六月廿四日  
檣燈船燈ノ修繕及ヒ碇泊燈漁船燈紅燈黑球等ヲ製造又ハ販賣致度者ハ當廳ヘ願出免許ヲ受ク可シ  
但シ製造者ハ見本相添ヘ願出ヘン

(第一條第八項參照)

●甲第四十五號三月廿二日  
近來着色偽似ノ茶ヲ製出シ又ハ不良ノ茶ヲ混淆シテ販賣候者有之趣右ハ正業者ノ妨害ト可相成ハ勿論人身ノ健康ニモ相關リ候義ニ付當

縣下ニ於テ茶業ニ従事スル者ハ左ノ茶業組合準則ニ基キ組合ヲ立テ  
規約ヲ設ケ當廳ノ認可ヲ受ク可シ  
右布達候事

茶業組合準則

第一條 茶業ニ従事スルモノハ製造者ト販賣者トナ不問郡又ハ町村  
ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ

但自用茶ノミヲ製スル者ハ此限ニアラス

第二條 組合ノ名稱ハ愛媛縣下何(郡町村)茶業組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 他物若クハ惡品ヲ混淆シ或ハ着色スル等總テ不正ノ茶ハ  
製造賣買セサル事

第二項 乾燥法及ヒ荷造方ヲ完全ニスル事

第三項 製茶荷造ノ上ハ必ス組合ノ名稱及ヒ製造人販賣人ノ姓名

ヲ記スル事

第四條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中事務ヲ擔任セシムヘシ

第五條 組合員ハ必ス其組合ノ証標ヲ携帯スヘシ

但シ証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受ク可シ

第六條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第七條 縣下便宜ノ地ニ取締所壹個所ヲ設ケ各組合ヲ統轄スヘシ

第八條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ

第九條 組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ協議ヲ以テ之ヲ  
定ム可シ

第十條 右各條ノ外組合ニ於テ必要トナス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設

クルヲ得

●甲第三十一號明治十九年二月廿三日

明治十七年三月甲第四十五號布達茶業組合準則第三條第二項ノ次へ  
左ノ一項ヲ追加シ第三項ヲ第四項トス

追加 第三項 製茶検査法ヲ設ケ其正否ヲ鑑別スルヲ

(第二條第九項参照)

●明治十七年十月四日第二十五號布達

墓地及埋葬取締規則

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬

スルヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限りニアラズ

第四條 區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非ザレハ埋葬又ハ火葬ヲ  
ナスコトヲ得ス

第五條 墓地及火葬場管理者及區長若シクハ戸長ノ認許証ヲ得タル  
ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス亦警察署ノ許可ヲ得  
タル上ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行  
フベシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スルモノハ所轄警察署ノ許可ヲ受  
クヘシ其許可ヲ得ヌシテ建設スルモノハ之ヲ取除カシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノハ之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜ヲ設ケ内務卿ニ届出スヘシ

●明治十七年十月四日第八拾貳號布達

今般第二十五號ヲ以テ墓地理葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スル者ハ違警罪ヲ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨布達候事

●甲第二百十六號明治十七年十月廿七日

本年第二十五號公達墓地及埋葬取締規則ニ依リ細則別冊之通制定シ來ル明治十八年一月一日ヨリ施行ス

### 墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地及火葬場ハ從前許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 已テ得サル事情アリテ墓地及火葬場ヲ取廢ケ又ハ新設スル

場合ハ左ノ諸項ノ手續ニ依リ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出ヘシ

一 墓地及火葬場新設ヲ要スル事情アルモ町村各一ヶ所限リ一町村

内部落數ヶ所ニ分レ其距離遠隔等ニテ實際増設ヲ要スルモノハ

其旨ヲ願書ニ詳記スヘシ

二 墓地又ハ火葬場ヲ新設スルハ國道縣道鉄道大川ニ沿ハス人家ヲ

隔ル凡ソ六十間(火葬場ハ百二十間)以上ニシテ土地高燥飲用水之障ナキ

地ヲ撰ム可シ

三 墓地ヲ新設スルハ人口ノナキ處ニ付貳反歩ノ割合ヲ以テシ火

葬場ヲ新設スルニハ反別凡ソ壹畝歩以內トシ可成荒蕪不毛及山

林等ノ薄稅地ヲ撰擇スヘシ然レモ右等ノ地無之歟又ハ事故アリ

耕地中設置ヲ要スルモノハ其事由若クハ官地へ設置ヲ要スルハ相當代價取調拂下之義等願書ニ詳記スヘシ而シテ新設願書ハ總テ其總代二名以上及衛生委員連署ノ上差出スヘシ

但四隣ノ地形明瞭ニ模寫シ夫々色分チナシ國道縣道大川人家飲用水ノ距離ヲ詳記シ圖面ヲ願書ニ添フヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 傳染病虎列刺病發疹窒扶私痘痘死埋葬ハ郡村ニ限り通常墓

地ノ人家ヲ隔ル百二十間以上ニシテ國道縣道鐵道大川ニ沿ハズ且土地高燥飲用水ニ障ナキ地ノ一隅ヲ區劃シ埋葬スルヲ得

但本文墓地ノ新設ヲ要スルハ本則第二條第二項第三項ニ準シ願出ルハ勿論猶人家ヲ隔百二十間以外ノ地ヲ撰フヘキモノトス

第六條 墓地周圍ノ塀界ヲ云フ 墓地ニ非サル地ニハ樹木ヲ栽スヘシ墓地ノ内ニハ一文以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第六條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及ヒ修繕ヲ怠ルヘカラス

第七條 火葬場ハ火爐筒ヲ供ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ凡山林原野等ニシテ人家ヲ隔ル場所ナルハ格別ナリトス

第八條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行ヘシ

第九條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬ノ遺骨ヲ遺藏スルモノハ格別ナリトス

第十條 墓地及ヒ火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ヲ其村總代ヨリ分署所轄ハ分署ヲ經テ所轄警察署及戸長役場ヲ經テ郡役所ヘ届ケ置クヘシ

第十一條 取締規則第七條ニ依リ墓地ノ内外ヲ間ハス誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻スル碑標ヲ建立セントスルキハ其碑標ノ圖面及ヒ碑文ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ

許可ヲ受クル限リニ非ス

第十二條 死亡届理火葬執行並ニ醫師手續ハ左ノ諸項ニ從フヘシ

一 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

但火葬ノ遺骨ヲ墓地ヘ埋葬セントスルモノハ亦別ニ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

二 醫師ノ治療ヲ受クルヲ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルキハ速ニ最寄醫師ニ就キ死体檢案書ヲ請求シ自家死亡書ニ添ベテ戸長ノ許可證ヲ乞フヘシ

三 妊娠四ヶ月以上ニシテ死胎分娩ニ係ルキハ速ニ最寄醫師若クハ産婆施産書ヲ請求シ自家ノ死亡届書ニ添ヘテ戸長ノ認許證ヲ乞

フヘシ

但出産ノ後一時呼吸シテ死亡セシ者ハ先ツ出産届ヲナシ更ニ死亡届手續ヲナスヘシ

四變死ニ係ルキハ立會醫師檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒ自家ノ死亡届ニ添ヘテ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

但變死ニ係リタル者ハ假令廿四時間以内ト雖モ檢視官ノ許可ヲ得ルニ於テハ埋葬スルコトヲ得

五囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒ之ヲ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

六患者死亡シタルキ主治醫ニ於テ即時第一號書式ノ届書一通ヲ作り調印ノ上死者ノ家人ニ附與スヘシ

七死体檢按ヲ請フ者アルキ醫師ハ何時ニテモ之ニ應シ死体ヲ檢按

シ第二號書式ニ依リ死胎分娩ニ係ルモノ其檢案ヲ乞フ者アルキ醫師又ハ産婆同様速カニ之ニ應シ死兒ヲ檢案シ第三號書式ニ依リ檢案書一通ヲ作り其家人ニ附與スヘシ此場合ニ於テ死体ノ異狀アルキ又ハ疑ハシキ景狀アリト認ムルトキハ直チニ最近ノ警察署又ハ分署ヘ申報スヘシ

八戸長ハ死亡ニ係ル届書檢案書證書ヲ領収スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

九戸長ニ於テ死者ノ家人ヨリ差出ス處ノ届書ヲ調査シ死亡第四號死胎分娩第五號書式ノ埋火葬認許證ヲ作り其家人ニ附與スヘシ  
十住所氏名不詳ノ變死又ハ行倒等ノ死屍(變死ハ檢視済)戸長場ニ於テ假

ニ埋葬ヲ行ハントスル場合ハ其旨ヲ其墓地ノ管理者ニ報告スヘシ

●甲第五十號

明治十七年十二月甲第二百十六號布達墓地及埋葬取締規則第十二條十項ノ次ヘ左ノ項ヲ追加ス

十一傳染病ノ死体ハ墓地及埋葬取締規則第三條時間ノ限リニアラス

十二墓地ノ區域ハ本則第一條ニ掲クルカ如キト雖モ同第二條第二項ニ抵觸スル一己人持ノ墓地ニ於テハ左ノ諸項ヲ除クノ外自今埋葬スルヲ許サス

一火葬ノ遺骨ヲ埋葬セントスルハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出

然ル後之ヲ執行スヘシ

二夫妻ノ内巳ニ死セル一人ヲ埋葬シ今後其夫又ハ妻ノ死屍ヲ合葬セントスル情願アルハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

●乙第七十六號十八年四月廿日

明治十七年十二月甲第二百十六號布達墓地及埋葬取締規則第十二條十項住處氏名不詳變葬又ハ行倒ノ死屍檢屍濟ミ戸長役場ニ於テ假ニ埋葬ヲ行ハントスル場合ハ死後廿四時間以内ト雖モ執行スルヲ得ス此旨相達候事

●甲第五號十九年一月九日

明治十七年十二月甲第二百十六號布達墓地埋葬取締規則第十一



條左ノ通改正ス

第十一條 取締規則第七條ニ依リ墓地ノ内外ヲ問ハズ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻スル碑標ヲ建立セントスルハ其碑標ノ圖面及ヒ碑文ヲ添ヘ所轄警察所ヘ願出許可ヲ受クヘシ尤死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及ヒ生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ此ノ限リニ非ス

但墓地外ノ官有地又ハ全社寺境内地ニ碑標ヲ建設セントスルハ其使用ノ箇所面積實測ハ勿論其近傍地景地同社寺境内ハ其建設物ノ位置等明瞭ナル色分ケ圖面相添ヘ別途地所使用ノ義縣廳ニ願出許可ヲ受ク可シ

(第三條第壹項参照)

●甲第百五十六號十四年八月二十日

本年甲第百五十五號ヲ以テ營業稅雜種稅規則布達候ニ就テハ稅率調査其他左ノ通可相心得此段布達候事

但此ノ達ニ矛盾スル從前ノ達指令ハ消滅ト心得ハシ

第壹則 稅率ノ調査

第壹條 營業稅及ヒ雜種稅ノ申一ケ年賣上及ヒ貸付紹介收益等ノ金

高ニ應シ稅額ヲ定ルモノハ前一ケ年ノ賣上及ヒ貸付紹介收益等ノ金高ニ據ルモノトス

但前年營業一ケ年未滿ノモノハ實際經過セシ月數ノ金高ヲ以テ一ケ年ヲ推算スヘシ

第二條 第二條ノ金高ハ各營業者ニ於テ前壹ケ年ノ金高ヲ調ヘ郡長

宛ノ届書ヲ作り該町村戸長へ差出ヘシ

第三條 營業稅申資本金高二應シ稅額ヲ定ムルモノハ本年六月十五日現在ノ資本金高二據ルモノトス故ニ其營業者ニ於テハ郡長宛ノ届書ヲ作り該町村戸長へ差出ヘシ

第四條 戸長ハ前條届書ヲ勘査適實ト認ルキハ之ニ奧印加印シ郡長へ差出スヘシ若シ不適當ト思惟スルキハ本人ニ説諭シ適實ニ歸セシムヘシト雖モ本人承諾セサルニ於テハ所分方郡長へ稟議スヘシ  
第五條 郡長ハ各營業者届出ノ金高ヲ勘査シ不相當ナキト看認ムルキハ之ヲ受理シ若不都合ノ廉アレハ再調ヲ命シ或ハ時機ニ依リ郡吏ヲ派遣シ各營業者賣上貸付等ノ帳簿ヲ檢査スルヲアルヘシ且營業者届出金高不相當ノ趣ヲ以テ戸長ヨリ稟議ニ際シテハ郡吏ヲ發遣シ諸帳簿精査ノ上至當ノ高ヲ定メシムヘシ

但假令一旦受理スルモ後日ニ至リ最前ノ届出不都合ト看認ムルキハ尙ホ再調スルヲアルヘシ

第六條 轉業又ハ新規營業届出ルモノハ其賣上金又ハ貸付紹介收益金等一ケ年平均高ヲ見積定規ノ稅額ヲ賦課ス故ニ一ケ年見積金高ハ其營業人ニ於テ豫メ見込テ立該届書ニ添ヘ郡長ニ申出ヘシ  
但本文見込金高追テ實際ノ金高二差略ヲ生スルモ該年度ノ税金ハ之ヲ増減セサルモノトス

第七條 諸市場演劇諸興行遊覽所等ノ上リ高ハ帳簿ヲ製シ廉限リ明細ニ記載シ毎翌日必ス戸長へ差出シ其檢印ヲ請フ可シ  
但縣官郡吏又ハ戸長等臨時其帳簿ヲ檢査スルヲアルヘシ

第八條 前條ノ帳簿ハ税金及ヒ其上納証書ト共ニ之ヲ郡役所ニ差出  
ヘシ

第九條 第二條第三條ニ掲シ金高届出ノ書式ハ附録第一號ニ據ルヘ  
シ

第十條 諸市場ニ於テ物品ヲ競賣スルハ營業稅雜種稅規則第二則第  
九條ニ記載アル種類ニ限ル若シ之ニ類似ノ物品ヲ競賣セント欲ス  
ル者ハ其物品及ヒ賣買ノ方法申合規則等ヲ具テ願出ヘシ果シテ弊  
害ナシト看認ルモノハ之ヲ許可スヘシ

第十一條 藝妓幫間俳優遊藝稼人ハ其情實止ヲ得サルニ出ルモノニ  
アラサレハ之ヲ許サス

第十二條 廿年二月屠畜營業規則發布ニ付刪ル

第十三條 營業稅雜種稅規則第壹則第壹條第二條ニ記載スル諸營業  
人ニシテ行商並ニ出職ヲナスモノ及ヒ左ニ掲ル諸營業人ハ一人馬乘  
ハ一頭ニ鑑札ヲ申請クヘシ鑑札ヲ所持セサルモノハ行商並出職及  
ヒ其營業ヲ爲スヲ得ス(十四年甲第二百三十八號ヲ以テ文中増加)  
但本文鑑札ハ之ヲ賣買シ若クハ貸借スルヲ得ス

- 一 遊藝師匠
- 一 遊藝稼人
- 一 藝妓
- 一 幫間
- 一 相撲
- 一 相撲行司
- 一 俳優
- 一 乘馬
- 必要ナキニ付以下畧ス

●甲第二百三十八號十四年十一月十九日

本年甲第百五十六號布達地方稅ニ係ル諸營業者戶外ニ掲クヘキ看板  
書式肩書ニ其營業許可或ハ届出年號月日ヲ記載スヘシ此段布達候事

●明治十四年甲第百五十七號

自今地方稅中營業取締規則別冊之通改正候條此段布達候事

地方稅中營業取締規則 爾後ノ廢改ニ係ル條ハ刪ル

第一條 仲買商ハ他ノ賣買ヲ紹介スルト雖モ自宅又ハ其他ニ於テ物  
品ヲ競買スルヲ許サス

第二條 諸市場ニ於テハ魚青物古道具牛馬等ノ外競賣スルヲ許サス  
但別段ノ許可ヲ受タルモノハ此限ニアラス

第三條 前條別段ノ許可ヲ受タルモノト雖モ時機ニヨリ之ヲ停止若  
クハ禁止スルコトアルヘシ

第四條 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋ニ於テ客ノ爲メニ酒筵ヲ開  
クトキ午後十二時ヲ過クルヲ得ス

第五條 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋等ハ來客及藝妓ヲ宿泊セシ

ムルヲ得ス

但遊藝稼人ノ内盲人又ハ十五歳未滿之者等免稅者ニ限リ客ノ望  
ニ應シ音曲ヲ弄セシメ候義若シカラス

第七條 料理屋茶屋待合遊船宿芝居茶屋等ニ於テ來客ノ内身分不相  
應ニ金銀ヲ消費スル者アルモ最寄警察署又ハ分署ヘ密告スヘシ

第八條 人寄席ニ於テ景物ヲ唱ヘ來客ニ鬮ヲ賣リ物品ヲ與ヘ及ヒ來  
客ヲシテ藝人休息所ヘ立入ラシムルヲ得ス

第九條 人寄席ニ於テ免許ヲ受ケサル者ヲシテ藝妓ニ紛ラハレキ處  
業ヲ爲サシムルヲ得ス

第十四條 兩替店ハ交換金ノ内不正ノモノアルモ其交換人ノ住所  
姓名ヲ記シ其員數モ併シテ最寄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十五條 兩替店ハ多額ノ金錢及ヒ古金銀等ヲ交換スル者アルキハ  
確實ナル証人ヲ立テサセ其証書ヲ取置ク可シ若シ疑ハシキ者ト看  
認ルキハ最寄警察署又ハ分署ヘ密告スヘシ

第十六條 運漕店ハ船待等ト雖ヒ旅籠屋ヲ兼ルニアラサレハ他人ヲ  
宿泊セシムルヲ得ス

第廿二條 旅籠屋料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店等ハ藝妓ト  
住居ヲ同フスルヲ許サス

但本文營業者ノ家族及ヒ附籍者ハ藝妓營業ヲナスヲ得ヌ尤モ居  
ヲ異ニスルモノニシテ其情實止ヲ得サルニ出ルモノハ此ノ限ニ  
アラス

第二十條 飲食店ハ來客ヲ宿泊セシメ又ハ來客ノ爲メニ藝妓及ヒ遊

藝師匠遊藝稼人ヲ招キ又ハ自家ノ婦女雇人等ヲシテ音曲ヲ弄セシ  
ムルヲ得ス

第廿四條 湯屋ハ浴湯客ヲ宿泊又ハ飲食セシムルヲ得ス

但茶菓ノ類ハ此限ニアラス

第廿五條 湯屋ニ於テ其窓等ヲ開放スルキハ簾帷等ヲ以テ其外面ヲ  
覆ヒ必往來ヨリ透觀セサル様致スヘシ

第廿六條 雇人請宿ハ人身賣買ニ紛ハシキ處業ハ勿論不分明者及脫  
籍者等ヲ口入スルヲ得ス

第廿七條 雇人請宿ハ雇人ノ口入ヲ名トシテ他人ヲ宿泊セシメ旅籠  
屋ニ紛ハシキ處業ヲ爲スヲ得ス

第廿八條 遊藝師匠ハ寄席諸興行場及ヒ旅籠屋料理屋待合茶屋遊船

宿芝居茶屋飲食店等ニ於テ客ノ爲メ其遊藝ヲ演メルヲ得ス

第廿九條 遊藝稼人ハ旅籠屋料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店等ニ於テ客ノ爲メ音曲ヲ弄シ藝妓ニ紛ハシキ所業ヲ爲スヲ得ス且藝妓ハ飲食店ニ於テ客ノ爲メ營業スルヲ許サス

但盲人又ハ十五歳未満ノ者免許者ニ限リ飲食店ヲ除ク外客ノ望ニ應シ音曲ヲ弄シ俟儀ハ苦シカラス

第三十條 藝妓幫間ノ時間ハ午前八時ヨリ午後十二時遊藝師匠遊藝稼人ノ時間ハ午前六時ヨリ午後十二時迄トス

第三十一條 藝妓自己ノ住居ナル家ニ於テ他人ヲ宿泊セシメ又ハ他人ノ家ニ宿泊スルヲ得ス

第三十三條 鑑札ヲ携帯スヘキ營業人ハ其鑑札ヲ携帯セザレハ其營

業ヲ爲スヲ得ス

但本文鑑札ハ之レヲ賣買シ若クハ貸借スルヲ許サス

第二十四條 市場演劇諸興行並遊覽所遊技場人寄席ノ營業時間ハ午前第六時ヨリ午後十二時迄トス

第三十五條 遊藝師匠ハ弟子ヲ集メ復習會其他種々ノ名義ヲ以テ男女ヲ混同シ又ハ興行ニ紛ハシキ企テ爲シ藝ヲ演セシム可カラス

●甲第五十二號十七年三月廿八日

明治十四年本縣甲第百五十七號布達地方稅中營業取締規則左ノ通追加ス

第三十五條 遊藝師匠ハ子弟ヲ集メ復習會其他種々ノ名義ヲ以テ男女混同シ又ハ興行ニ紛シキ企テ爲シ藝ヲ演セシム可ラス

●甲第廿七號十六年二月廿三日

明治十四年本縣甲第百五十七號布達地方稅中營業取締規則第六條第廿條第廿九條但書「盲人又ハ十五歲未滿ノ者等」十二字刪除候條此旨布達候事

(第二條第二項參照)

●明治十四年甲第廿二號

政談ニ關セサル事項ト雖モ公衆ヲ集メ演說論議スル者ハ開會前其會主會員連署ヲ以所轄警察署ヘ届出ヘク時宜ニ依リ取締ノ爲メ警察官ヲシテ臨場致サセ候條此段布達候事

但シ屋外ニ於テハ演說論議不相成候事

(第三條第七項參照)

●甲第百卅五號明治十八年十月二十九日

官有地貸渡規則

第一條 官地ヲ借用セント欲スルモノハ身元慥ナル保証人二名以上ヲ立別紙申號書式ニ照シタル願書ニ借地箇所ハ勿論其近傍地景地目等明瞭ナル色分ケ圖面相添ヘ願出ヘシ

第二條 借地料ハ借地人ヨリ上納スヘキハ當然ナリト雖モ若シ借地人ヨリ上納セサルモハ保証人ヨリ上納セシムルモノトス

第三條 借地人ニ於テ期限通料金上納セス保証人ヨリ上納セシムルモ其地所引上ク可シ此場合ニ於テハ假令如何ナル勞費アルモ其償ハ下附セサルモノトス

第四條 期限中タリモ公用ハ勿論官廳ノ都合ニ依リ其地ヲ返還セシ

メサルヲ得サル場合ニ臨ミ返地ヲ達シタル中ハ滿六ヶ月ヨリ多クサル期限内ニ返還スヘシ

但別段ノ言渡シアル中ハ此限ニアラス

第五條 貸渡年期ハ曆年度五ヶ年以内トス

第六條 滿期ニ至リ更ニ之ヲ借ラント欲スルモノハ三ヶ月前ニ第一條ノ手續ヲ以テ願出ヘシ

但月貸ノ分ハ一ヶ月前本文同様願出ヘシ

第七條 借地ノ許可ヲ得サルモノハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルコトヲ得ルト雖モ他人ヘ書入又ハ質入及ヒ使用地目ヲ變換スルヲ得サルモノトス

但轉貸及ヒ使用地目變換ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テハ之ヲ爲スコト

ヲ得

第八條 第七條ニ違背スルモノハ地所引上地目變換ニ係ルモノハ素地ニ復舊セシムヘシ

第九條 借地許可ノ上ハ日數十日以内ニ別紙乙號書式ノ請書差出ヘシ

●甲第百三十七號十八年十月二十九日

堤上堤服仕用規則

第一條 従前ノ慣行ヲ以テ堤服ヲ仕用セント欲スルモノハ身元慥ナル保証人二名以上ヲ立テ別紙甲號書式ニ照シタル願書ニ仕用箇所ハ勿論其近傍地景地目等明瞭ナル色分ケ圖面相添ヘ願出ヘシ

第二條 仕用料ハ仕用人ヨリ上納スヘキハ當然ナリト雖モ若シ仕用



人ヨリ上納セサルモハ保証人ヨリ上納セシムルモトス

第三條 仕用人ニ於テ期限過料金上納セス保証人ヨリ上納セシムル  
モハ爾后其仕用ヲ停止スルコトアルヘシ

此ノ場合ニ於テハ假令如何ナル勞費アルモ其償ヲ下附セサルモ  
ノトス

第四條 地所仕用許可ヲ得タルモノハ其當初願出ノ目的ニ隨テ之ヲ  
使用スルコトヲ得ルト雖モ他人へ賣入質入又ハ之ヲ鑿ケ或ハ石垣ヲ  
設クル等地形及ヒ地目ノ變換ニ係ルコトハ一切之ヲ爲スコトヲ得サル  
モノトス

但其已ムヲ得サル分ハ事情ヲ具シ許可ヲ乞ヘシ尤民有地ノ質入  
書ハハ此限ニアラス

第五條 仕用地内ニ於テ井戸溜壺等ヲ新設ヲ禁ス

但己ムヲ得サル分ハ前條但書ニ準ス

第六條 仕用期限内タリモ公用ノ爲仕用ヲ差止メサルヲ得サル場合  
ニ臨テハ即時差止ムルコトアルヘシ

第七條 滿期ニ至リ更ニ之ヲ仕附セント欲スルモノハ期限ヨリ三  
ケ月前ニ第一條ノ手續ニ準シ願出ヘシ

但月期仕用ノ分ハ期限ヨリ一ケ月前本文同様願出ヘシ

第八條 第四條第五條ニ違背スルモノハ使用差止メ地目變換及ヒ井  
戸溜壺等新設スルモノハ素地ニ復舊セシムヘシ

第九條 仕用許可ノ上ハ日數十日以内ニ別紙乙號書式請書ヲ差出ス  
可シ

第十條 仕用ノ年季ハ曆年度五ケ年以内トス

●甲第四十一號明治十九年三月二十三日

官有ノ河敷溝敷河川寄洲川沿地等ハ自今拂下又ハ貸下ヲ許サス從前貸下許可ノモノハ滿期限リ返地スヘシ

但諸興行等ノ爲メ臨時貸下(日數七)其他物揚場等公益上ニ使用

スルモノ及ヒ熟田畑ノ分貸下ノ義ハ本文ノ限ニアラス尤モ右借

地出願ノ節ハ客年甲第百三十五號布達ニ準據スヘシ

●甲第四十二號十九年三月二十二日

明治十八年十月甲第百三十六號布達ヲ廢シ同年甲第百三十五號布達官有地貸渡規則ヘ左ノ一項ヲ追加ス

但河川寄洲從前貸渡期限中ノモノハ客年甲第百三十五號布達ヲ遵

守スヘシ

第十條 河川寄洲ノ借地ノ治水ニ妨害アル構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽植スルヲ許サス

●明治十四年甲第百四十一號

官有地ニ於テ諸興行等ノ爲メニ時假小屋建設ノ義ハ是迄最寄警察署ヘ申出來候處自今以后明治十一年本縣甲第百十一號布達ニ準シ借地ノ義可願出此段布達候事

但諸商業等ノ爲メ天幕葎簀張等露店同様ノモノハ是迄ノ通最寄警察署ヘ可申出候事

(第四條第一項參照)

●明治十四年甲第百廿二號

鼠取蠅取藥等ハ賣藥規則外ト雖モ元來動物ヲ殺スニ足ルヘキ藥品ナルヲ以テ誤テ人命ヲ傷害スルモ難計ニ付調製發賣セント欲スルモノハ其用法ヲ詳記シ藥劑ノ驗査可願出此段布達候事

但他府縣免許ノ製劑ヲ請賣行商セント欲スルモノ亦本文ニ準レ可願出事

●明治十五年甲第百六十七號

本縣ニ於テ檢査濟發賣許可シタル鼠取蠅取藥等ヲ受賣行商セント欲スルモノハ製劑者連署ヲ以テ所轄郡役所ヘ可届出此段布達候事

(第四條第二項参照)

●明治十四年甲第十號

製煉藥品ノ義ハ本邦ニ於テモ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管

輸入品ヲ妄信シ概シテ國產ヲ卑ムノ風ニ流レ贗惡藥ノ輸入日ヲ追テ増加レ其損害不尠ニ付自今製造品試験ノ上其良否ヲ鑑定シ免許鑑札相渡可ク旨豫テ達相成候條醫療用職工用ヲ不問藥品製煉販賣致シ候者ハ其製造品相添ヘ左ノ箇條書ニ從ヒ出願許可ヲ受クヘシ此段布達候事

製藥免許手續

一製藥人ハ屬籍住所姓名等ヲ詳記レタル願書三通ヲ造リ其製品ヲ添ヘ差出スヘシ

一試験ノ上良品ナル者ハ免許鑑札ヲ交付シ若シ其製造十全ナラズンテ免許鑑札ヲ得サル者ト雖モ本人ノ志願ニヨリ内務省司藥場ニ於テ製煉方法ノ傳習ヲ受クルヲ得ヘシ

一製藥許可ヲ得タル者ハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標ニ藥名及ヒ其住  
所姓名ヲ記シ每品ニ貼付シテ販賣スヘシ

但藥名ハ國字洋文兩様共記載スルハ勝手タルヘシト雖モ洋文ノ  
ミヲ書スヘカラス必ス普通ノ譯名或ハ譯名之レナキモノハ假名  
ニテ原名ヲ記スヘシ

●明治九年乾第九十六號

官許發賣ノ製藥タリモ患者ノ容体ヲ酌量シテ私斷ヲ以テ妄ニ服用爲  
致間敷候此段賣藥人へ布達候事

(第四條第四項參照)

明治十三年甲第百八十七號

河川内ニ流出スル大小石ノ義ハ從來慣行ヲ以テ道路及ヒ治水ニ關ス

ル公共ノ修繕用ニ充ルモノ、外猥リニ使用不相成候條一已私用ニ望  
ノ向ハ相當代價ヲ以テ拂下ノ義可願出義ト可心得此段布達候事

●明治十四年甲第六十六號

客年十二月甲第百八十七號ヲ以テ河川内ニ流出スル大小石使用ノ義  
及布達置候處海岸ニ轉出スル大小石及埋堆ノ土砂並河川内土砂ノ義  
モ右布達ノ通相心得自今一級左ノ手續ニ依リ出願可致此段布達候事  
但本文修繕用ニ充ル石並ニ土砂欠乏ノ患無之箇所限リ營業ニ關ス  
ルモ可拂下事

(第四條第七項參照)

●甲第百七十八號十二月六日

市場其外營業時間ノ義ニ付本年十一月甲第百六十四號ヲ以テ相違候

處木戸錢無之一時ノ諸賑ト雖此時間ノ義ハ同様午前六時ヨリ午後十二時迄ト可相心得此段布達候事

●乙第百五十六號十六年九月十三日

一日限り諸賑興行戸長可認可之義今般甲第百四十六號ヲ以テ布達候處有ハ假令一日ヲ限ルモ追日出願スルモノハ願人ノ異同ニ拘ラス郡役所へ出願致サスヘク且麥熟シ田休ミ等ト唱へ場處ヲ定メ素人ヲシテ相撲或ハ演劇手踊等放樂ニ爲スモノ願出候ハ、舉動風俗ヲ紊スヤ否ナヲ郡長ニ於テ取調許可致スヘシ此旨相達候事

●甲第百四十四號十四年十一月十九日

定小屋並ニ寄席等ハ多人數群集雜沓スルヲ以テ失火之患少ナカラス依テ其災害豫防ノ爲メ自今場處ノ廣狹ニ依リ數所ニ用水可備置此段

布達候事

●甲第百四十六號十六年九月十三日

明治十二年十一月甲第二百二號布達一日限り諸興行戸長認可ノ義ハ免許ヲ受ケタル諸藝人ヲシテ賑興行ヲ爲スモノニ限り候條麥熟シ田休ミ等ト唱へ場處ヲ定メ素人ヲシテ相撲或ハ演劇手踊等放樂ニ爲スモノハ日數ニ拘ラス郡役所へ出願スヘシ

●甲第七號明治十九年一月十八日

明治十六年甲第百四十六號ヲ以テ麥熟シ田休ミ等ノ節素人ヲシテ放樂諸賑興行出願方及達置候處免許ヲ受ケタル諸藝人ヲシテ放樂興行ヲ爲スモノ二日以上ニ涉ルキハ郡役所へ出願許可ヲ受ク可シ

(第五條第一項参照)

●明治十三年甲第廿五號

明治八年八月乾第九十二號全十一年丙第十九號全十二年十一月甲第  
二百十四號市達左之通更正候條此段布達候事

凡ソ戸主ニシテ旅行及ヒ寄留セント欲スルモノハ管廳ニ對シ戸主  
ルノ義務ヲ盡ス可キ代理者ヲ定メ其他之者ト雖モ納稅スヘキ義務  
ル者ハ納期ニ至リ必ス稅額ヲ完納ス可キ負擔人ヲ定メテ被托者連署  
戸長役場へ届出タル後出發スヘシ

(第五條第三項参照)

●明治十七年甲第三十九號

街路取締規則及街路掃除心得別冊之通制定ス

但別冊規則並ニ心得ハ郡ノ公道及ヒ公衆ノ通行スヘキ都テノ私設

道路ニモ亦適用ス尤モ從前ノ布達々等別冊ニ抵觸スル分ハ取消ス  
右布達候事

街路取締規則

第一條 左ノ諸件ニ係ル者ハ其場ノ圖面ヲ添へ郡役所ヲ經テ縣廳へ  
願出許可ヲ受クヘシ

一街路へ樹木ヲ植へ井戸若クハ下水及ヒ用水路ヲ設ケ又ハ之ヲ廢  
除シ或ハ修理セントスル者

二街路へ火ノ見臺ヲ建設セントスル者及防火具其他公衆ノ用ニ供  
スル諸器具ヲ置ントスル者

第二條 左ノ諸件ニ係ル者ハ其場ノ圖面ヲ添へ所轄警察署又ハ分署  
ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 街路に招牌標旗檐庇物等日覆風除天幕葎簀張露店街燈等ヲ取設  
 二 神佛開扉説教等總テ廣告ノ爲街路へ建札ヲ爲サントスル者  
 三 工事其他營業上ノ爲ニ竹木石類ヲ街道ニ置キ或ハ板圍繩纒足代  
 等取設ケントスル者  
 一 但本項ノ許可ヲ受ケル場合ニ於テハ左ノ離形ニ依リ見認メ  
 易キ個處ニ掲ケ置クヘシ

六 豎曲尺二尺五寸

何年何月何日ヨリ	何年何月何日マテ
何郡町身分	何
願濟	某

四 街路又ハ多人數群集ノ場所へ天幕葎簀等ヲ以テ講興行場ヲ取設  
 五 神佛祭典等ノ節ニ時舞臺ヲ街路ニ取設ケル者  
 第三條 神輿ヲ巡行サレ及街路ニ山車又ハ手踊屋臺等ヲ出サントス  
 第四條 街路傍ニ厠圍ヲ設置セシムル者ハ明治十六年本縣甲第二十  
 五號布達ニ依ルヘシ  
 第五條 街路掃除心得第五條ノ塵溜場ヲ街路ニ設置セシムル處ハ  
 官有民有ニ拘ハラズ其町村ノ惣代人一人若クハ數人或ハ掃除受  
 付人ニテ設置セ  
 若クハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

但民有地ナル中ハ地主ノ承諾書ヲモ添付スヘシ

第六條 街路掃除心得第六條ノ塵捨場ヲ設置スルニハ關係アル町村ノ總代ニ於テ其場ノ圖面相添戸長並ニ衛生委員連署官有地ナレハ郡役所ヲ經縣廳へ民有地ナレハ處嶮警察署又ハ分署へ願出許可ヲ受クヘシ

但民有地ナル中ハ地主ノ承諾書ヲモ添付スヘシ

第七條 許可ヲ得テ街路ヲ使用シ又ハ掘鑿スル者ハ毀損シタル地盤ヲ其原形ニ復スヘシ

第八條 許可ヲ得テ街路ニ竹木石類ヲ置ク中ハ防圍ヲ設クヘシ

第九條 街路ニアル井其他溜壺ノ類ニハ必ス蓋又ハ防圍ヲ設クヘシ

第十條 街路ニ沿フタル家屋牆壁等崩壞顛倒ノ虞アルモノハ速ニ修

理又ハ毀却スヘシ

第十一條 街路橋梁及ヒ其他ノ場所ニ榜示シタル制札指道標ノ類ヲ毀棄汚損ス可カラズ

第十二條 路傍ノ樹木ヲ折伐シ又ハ便所街燈及ヒ溝渠下水ヲ毀損壅塞スベカラス

第十三條 街路ニ於テ覗輕業其他ノ藝ヲ演シ又ハ道敷内へ穀類菜菓ヲ植往來ノ妨害ヲ爲ス可ラス

第十四條 諸車又ハ牛馬其他ノ物件ヲ猥リニ街路ニ差置キ通行ノ妨害ヲ爲ス可ラス

第十五條 街路又ハ街路ニ沿タル川堀溝渠下水等へ動物ノ死屍其他汚穢物及ヒ土芥瓦礫竹木ヲ投棄ス可ラス



第十六條 魚類其他汚穢物ヲ洗滌シタル水ヲ路上ヘ洒注ス可ラス

街路掃除心得

第一條 街路及街路ニ沿タル溝渠下水等ノ掃除ハ兩側居住人(官署

官署用地ノ)ニ於テ分擔シ其片側ナレハ一方ノ居住人ニ於テ負擔類ハ該官署)

スヘシ尤モ實地ノ模様ニ依リ一戸若クハ二戸ニテ負擔シ難キ個處

ハ次條ノ例ニ依ルヘシ

但空屋空地ノ周圍ハ其所有主又ハ借地人ノ負擔トス

第二條 橋上其他負擔者ナキ街路及ヒ街路ニ沿フタル川堀溝渠下水

ノ掃除ハ其最寄ニ於テ便宜組合ヲ設ケ又ハ所村若クハ數町村ニ於

テ負擔スヘシ

第三條 掃除負擔ノ場所ハ勉テ常日清潔ニ掃除シ若動物等ノ死屍ア

ルハ其町村ニ於テ取片付クヘシ

第四條 市街地ニ於テハ炎天及烈風ノ節ハ塵埃ノ揚ラサル様時々道

路ニ水ヲ撒布スヘシ且氷雪ハ往來ノ妨害トナラサル様川堀溝渠下

水又ハ路傍ヘ掃寄セ置クヘシ

但严寒ノ節ハ夜間ニ限リ道路ヘ水ヲ灌ク可ラス

第五條 本縣違警罪第五條第十三十四十五十六十七項實施ノ町村並

各戸ニ於テ平日掃除シタル塵芥ハ町村ノ協議ヲ以テ最寄便宜ノ地

ヲ撰ミ別紙圖式ニ依リ共同塵溜場ヲ設ケ之ニ投棄スヘシ尤モ一

人若クハ數人或ハ掃除受負人ニ於テ之レヲ取設クルモ妨ナシ但各

戸私有地内ト雖モ塵芥ヲ投棄シ障害ヲキ個處ハ本文ノ限ニアラス

第六條 前條ノ塵溜場ニ積聚セシ塵芥ハ一町村又ハ數町村ノ協議ヲ

以テ人家ヲ離ル、便宜ノ地ヲ撰ミ共同塵捨場ヲ設ケ(構造ハ適宜  
タルヘント  
雖モ必ス防圍ヲ要ス)常ニ人夫ヲシテ溜滯腐敗ノ患ナキ様時々之ヲ該場ヘ  
運搬投棄セシメ追テ焼却スヘシ

第七條 本縣違警罪第五條第十三十四十五十六十七項實施ノ町村ヲ  
除クノ外各町村並ニ各戸ニ於テ平日掃除シタル塵芥ハ便宜障害ナ  
キ地ヘ投棄スヘシ

第八條 地方ニ依リ肥料等ニ爲サンカ爲メ塵溜場及塵捨場ノ塵芥掃  
除ヲ受負フ者アルキハ之レニ取除カシムルモ其町村ノ適宜タルヘ  
シ

第九條 塵溜場設置ノ許可ヲ受タルキハ左ノ離形ニ依リ標札ヲ見易  
キ個處ヘ掲ケ置クヘシ

豎曲尺一尺二寸

何年何月何日何警察(分署)許可  
塵溜場  
何郡何町又ハ何村字何々  
若レクハ何某

第十條 塵捨場設置ノ許可ヲ受ケタルキハ左ノ離形ニ依リ標札ヲ見  
易キ個處ヘ掲ケ置クヘシ

豎曲尺一尺二寸

何年何月何日縣廳(警察分署)許可  
塵捨場  
何郡何町又ハ何々村或ハ何市街何組

第十一條 前數條中ノ費用ニ關スルモノハ其關係スル組合又ハ町村

ノ負擔トス(別紙共同塵溜場構造ノ圖及ヒ構造心得ハ略之)

(第五條第六項参照)

●縣令第廿壹號廿年一月廿四日

醫師取締規則左ノ通り相定メ來ル二月一日ヨリ施行ス

但シ従前ノ布達々等ニシテ本則ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

### 醫師取締規則

第一條 新ニ免許ヲ得テ醫術ヲ開業スルモノ及ヒ他府縣下ヨリ當縣  
内ニ移轉開業セントスルモノハ第一號式ノ届書ニ免狀寫ヲ添ヘ開  
業前當廳ヘ届出ス可シ

第二條 縣下開業ノ醫師其開業地ヲ換ヘ又ハ他府縣ニ移轉開業セン  
トスルハ第二號式ニ準シ速ニ當廳ヘ届出ヘシ

但シ甲郡役所管内ヨリ乙郡管内ヘ轉スルハ本文届出ノ外甲郡  
役所ヘモ届出ヘシ

第三條 醫術ヲ以テ官衙ニ奉職スルモノト雖モ傍ラ一般患者ノ治療  
ヲナスモノハ第一條又ハ第二條ノ手續ヲナス可シ

第四條 他府縣下開業ノ醫師ニシテ一時縣下ニ滯在中患者ヲ治療ス  
ルモノト雖モ第一條又ハ第二條ノ手續ヲナス可シ

第五條 醫師出張處ヲ設置セントスルハ左ノ事項ヲ詳記シ出願許  
可ヲ受ク可シ

一出張處設置ノ郡町村番地

一出張ノ期日及ヒ其時間

一代診者ヲ置クハ其姓名年齢及ヒ免狀ノ寫

第六條 他府縣開業醫師ニシテ縣内ニ出張處ヲ設ケントスルハ第五條願書ニ自己免狀ノ寫ヲ添フ可シ

第七條 出張所設置ノ許可ヲ受ケタル後第五條所載ノ各項ニ異動アルハ速ニ其旨届出ヘシ

第八條 公立病院出仕又ハ退職開業スルモノハ第三號式ニ準シ届出ヘシ

但シ他府縣開業醫師ニシテ公立病院へ出仕シタルハ免狀寫ヲ添へ届出ヘシ

第九條 醫師ハ左ノ雛形ノ如キ門標ヲ掲表スヘシ  
豎曲尺二尺 醫籍番號ヲ記ス可シ

第七寸 第 號  
免許 何科醫業 氏 名 木製

第十條 廢業又ハ死亡シタルハ醫師免許規則(明治十六年三十五號)布告以下做之

第十條 依テ七日以内ニ届出ヘシ

第十一條 免狀ヲ亡失毀損シ又ハ氏名族籍ヲ變換シタルハ醫師免

許規則第八條ニ據リ七日以内ニ書換願出ヘシ

第十二條 醫師ハ必ス處方録ヲ製シ患者ノ住所職業氏名ト齡及ヒ病名處方轉歸等ヲ記載シ之ヲ保存シテ臨時點檢シ用ニ供スヘシ

但シ患者轉歸詳明ナラザルハ其旨ヲ記載シ置ク可シ

第十三條 患者ニ藥劑ヲ與ルニ其容器又ハ包紙ニ用法患者ノ姓名月日及ヒ自己ノ姓名又ハ館名堂號ヲ記載シ且内外用藥ヲ一具弁識

シ易キ様區別ヲナスベシ

第十四條 患者ニ處方書ヲ與ルニ其年月日ト患者ノ姓名ト齡及ヒ

自己ノ姓名ヲ記載シ之レニ捺印スヘシ

第十五條 醫師ハ左ノ各項ヲ爲スコトヲ禁ス

一 診察ヲナサ、ル患者ニ對シ藥劑又ハ處方書若クハ容体書ヲ與ル

二 檢案ヲナサスレテ死體檢案書ヲ與ル

第十六條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第

十二條第十三條第十四條第十五條ニ違犯シタル者ハ本縣違警罪ニ

ヨリ罰セラルヘシ

(刑法違警罪ニテ處罰スル分)

●甲第四百四十六號明治十八年十一月四日

驛傳營業取締規則及ヒ細則并ニ驛名組合區域別冊之通リ制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス尤モ從前營業ノ者ト雖モ引續キ營業ヲ爲

サント欲スル者ハ更ニ願出若クハ届出ヘシ

但シ明治十四年八月甲第五百五十七號布達中旅籠屋營業ニ關スル廉并

ニ明治十五年十月甲第二百十三號布達及ヒ全十七年四月甲第六十八號

布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

驛傳營業取締規則

第一條 此規則ニ於テ驛傳營業ト稱スルハ左ニ記載シタルモノヲ云

フ

一 陸運請負業 荷主等ノ委託ヲ受ケ荷物運送取扱ノ業ヲ營ムモノ

一人馬繼立業 驛所ニ於テ常ニ旅人若クハ荷物ヲ遞送スル爲メ牛馬諸車及ヒ人夫等ヲ供給スルモノ

一 陸運稼業 牛馬及諸車駕籠等ヲ以テ旅人若クハ荷物ノ遞送配達等ヲ業トスルモノ并ニ渡守仲仕等ノ類

一 宿屋營業 旅人宿船宿木賃宿等ノ類

第二條 驛傳營業人ハ組合區域ニ據リ各業合同シテ組合ヲナシ驛傳取締所ヲ設置スヘシ

但シ組合區域廣濶ナルキハ便宜出張所ヲ設クルヲ得

第三條 驛傳取締所ハ便宜驛傳營業ヲ兼ルヲ得

第四條 驛傳取締所ハ左式ノ標札ヲ掲ケ且ツ衆人ノ視易キ場所ニ驛傳營業ニ關スル諸規則并ニ組合規約等ヲ掲ケ置ク可シ

三尺五寸

八寸  
何々驛傳取締所

第五條 驛傳取締所ハ旅人等ヲ需ニ應シ何時タリモ人馬諸車ヲ供給シ又旅人宿等ヲ紹介スルヲ得

第六條 驛傳取締所并ニ營業人ハ旅人又ハ貨物ノ中不審ト見認ムル

片ハ速ニ警察官又ハ巡查ニ密告スヘシ

第七條 驛傳營業ハ組合中ヨリ正副取締人一名ツ、ヲ撰擧シ其被撰人族籍年齢業体財產所有高等ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ當廳ノ認可ヲ受ク可シ

但シ不適當ト見認ムル中ハ改撰ヲ命スルヲアルヘシ

第八條 驛傳營業取締人ハ左ノ事項ヲ擔任シ且ツ其組合及ヒ驛傳取

締所ノ事務ヲ掌理スルモノトス

一取締人ハ組合營業ニ關スル願届書等ニ連署スヘシ

一組合及取締所ニ係ル經營ノ收支ヲ整理シ一周年ノ精算ヲ組合内

ニ報告スルヲ

一 組合及營業人ノ名簿ヲ其營業種類毎ニ調製シ其住處氏名年齢及  
 舟車駕籠等ノ員數種類等ヲ詳記シ出入變更ノ都度加除訂正シ每  
 年六月十二月ノ兩度ニ其寫ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ  
 但シ本文營業種類及舟車駕籠等毎年十二月卅一日ノ現數ヲ以  
 テ製表シ翌年一月卅一日限リ當廳ヘ差出スヘシ  
 一 組合營業者ヲシテ取締規則及ヒ細則ヲ履行セシメ違犯者アル中  
 ハ速ニ處轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ  
 第九條 驛傳營業人ハ組合規約ヲ設ケ當廳ノ認用ヲ受ク可シ  
 但シ増補更正ヲオスルモ本文ニ全シ  
 第十條 組合規約左ノ諸項ヲ詳記スヘシ  
 一 驛傳取締所及組合ノ費用並ニ取締人手當等ノ收支方法

一 貨物遞送並ニ入馬諸賃錢及宿泊料等ノ定額  
 一 貨物取扱ノ手續及ヒ其責任  
 一 急行官務ノモノ取扱方法  
 一 貨物損害辨償ノ方法  
 一 驛傳取締所及ヒ組合ノ事務條項  
 一 取締人ノ任期及ヒ權限並ニ手當  
 一 違約者處分ノ方法  
 一 組合ノ會議ニ關スル事務規程  
 一 前數項ノ外營業上必要ノ事項  
 第十壹條 驛傳取締所及ヒ取締人手當並ニ組合ニ關スル諸費用ハ組  
 合營業人ニ於テ負擔スヘシ

第拾貳條 驛傳取締所ニ於テ左式ニ依リ組合証票木ヲ製シ組合各營業人ニ附與シ廢業シタルハ之ヲ還附セシム可シ

第 號

表 橫 二寸五分  
組合証票  
國郡町村番地族籍  
業体 何 誰

立三寸五分

裏 橫 二寸五分  
明治年月日附與  
某驛傳取締所 印

第拾三條 陸運稼業人ハ營業中必ス組合証票ヲ攜帶スヘシ  
第拾四條 組合証票ハ一切貸借又ハ讓與等爲メテ許サス

第拾五條 驛傳營業人ニシテ組合外ノ地ニ於テ營業セントスルハ

其地組合規約ニ從フヘシ

但シ甲地ヨリ乙丙地ヲ貫キ經過スル場合ノ如キハ此限ニ非ス

第拾六條 驛傳營業ヲナサントスルモノハ細則ニ依リ取締人連署之

上願出又ハ届出ヘシ

但シ廢業轉居若クハ改氏名或ハ死亡代替等ノ節ハ本文ニ準シ届出ヘシ

第拾七條 開廢業若クハ轉居改氏名或ハ代替等ノ節ハ所轄警察署又

ハ分署ニ届出ヘシ

第拾八條 營業ノ許可ヲ受ケタルハ驛傳取締所ヘ届出証票ヲ受ク

可シ



但シ廢業又ハ組合外へ轉居或ハ死亡等ノ節ハ証票還附スヘシ尤モ組合内轉居又ハ改氏名ノ節ハ証票ノ書換ヲ乞フ可シ

第拾九條 驛傳營業ハ其組合區域内ニ在籍又ハ寄留シ其組合ニ加入スルニアラサレハ之ヲ爲スヲ許サス

第二十條 驛傳營業人ハ組合中ニ定メタル定額外ノ賃錢ヲ請求スルコトヲ許サス

第廿一條 驛傳營業ハ旅人及ヒ貨物ヲ粗畧ニ取扱フヘカラス

第廿二條 營業上ニ關スル事ハ總テ營業主若クハ管理人其責ニ任スヘシ

第廿三條 驛傳營業人ニ非ラサルモノハ賃錢若クハ手數料ヲ受ケ驛傳業ヲナシ又ハ其紹介ヲナスヲ許サス

第廿四條 本則又ハ細則ニ違背シタルモノハ本縣違警罪ヲ以テ罰セラル、外尚ホ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第廿五條 營業ヲ停止シ又ハ禁止セラレタルモノハ親屬又ハ他人ノ名義ヲ以テ驛傳營業ヲナシ或ハ之ニ關預スルコトヲ許サス

第廿六條 前條々ノ外ハ其細則ニ從フ可シ

驛傳營業取締細則

第一章 陸運請負業

第一條 陸運請負業ヲナスモノハ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二條 運送物ヲ別テ左ノ二種トス

一 特別運送物

一 通常運送物

第三條 特別運送物ハ損害弁償ヲ要スルモノニ限り通常運送物ハ之

ヲ要セサルモノトス

但シ通常運送物ト雖モ取扱人ノ最モ重キ疎虞懈怠ニ出テタルモノハ特別運送物ノ例ニ據ルヘシ

第四條 陸運請負營業人ハ運送物繼立帳簿ヲ製シ運送ノ都度其種類個數賃錢荷主并ニ請取人ノ宿所姓名及發着ノ年月日等詳細記載シ置クヘシ

第五條 運送物ノ荷造粗造ニシテ運送中濡沾或ハ脫漏散逸ノ損害ヲ防キ難キト思慮スルハ之ヲ差出シタル荷主ニ就キ其荷造ノ改造ヲ請求スルヲ得

第六條 運送物ニ添附スル送り狀ニハ左ノ件々詳記セシ受負營業人

之ニ連署スヘシ

一 運送物 特別區別

一 物品ノ種類個數斤量金價 原價ヲ記スルハ特別運送物ニ限ル

一 賃錢 拂濟ノ區別

一 荷主及ヒ受取人ノ宿所氏名

一 前諸項ノ外運送上要用ノ事項

第七條 運送物中穀菽類又ハ盤類陶器流液物及脫漏シ易キモノ其他取扱上特別注意ヲ要スヘキモノハ其送狀ニ照シ物名ヲ表包ノ見易キ部分ヘ記スルカ又ハ記載シタル木札ヲ附スヘシ

第八條 特別通常ノ區別ニ依リ運送物ノ紛失損傷ハ其損害ニ相當スル原價ヲ請負者ヨリ弁償スヘシ

但シ人カヲ以テ防キ難キ災厄ニ罹リ生シタル紛失損傷ハ此限ニ  
アラヌ

第九條 危險物等ニシテ運送取扱ノ方別段規則アルモノハ其規則ニ  
從フヘシ

第十條 運送物ヲ陸運ヨリ水運ニ移シ回送スルキハ明治八年第百八  
十四號布告回送貨物取扱條例ニ基キ取扱フヘシ尤モ此場合ハ水運  
ニ移スヘキ場所ノ該請負營業人荷主ニ代リ廻漕營業人又ハ船長船  
主ト特殊ノ約定ヲナシ安全ニ運送スル手續ヲナスヘシ

第二章 人馬繼立業

第一條 細則第一章第一條第四條ハ人馬繼立營業者ニモ之ヲ適用ス  
第二條 總テ運送貨物ハ丁寧ニ取扱遺失又ハ破損等ノ生セサル様厚

ク注意スシ

第三條 運送貨物ハ到着及申込ノ順序ニ由リ繼立ヘシ  
但シ至急ヲ要スルモノハ此限ニテアラヌ

第四條 人馬繼立營業者ハ何人ノ求メタリモ謂レナク其繼立ヲ拒絕  
スルコトヲ得ス

第五條 疾病又ハ惡僻アル牛馬ヲ使用ス可ラス

第三章 宿屋業

第一條 宿屋營業者ハ爲メントスルモノハ所轄郡役所ニ願出許可ヲ受  
ク可シ

第二條 營業者ハ左ノ離形ノ看板ヲ店頭ニ掲ケ夜間ハ之ヲ燈火ニ換  
フヘシ

三尺

寸七

宿屋業

姓名

第三條

營業者ハ宿泊人名簿ヲ製シ左ノ書式ニ依リ記載スヘシ

但シ隊伍ヲナシタル兵隊ハ其隊號及引率スル長官ノ姓名外何人

ト記スヘシ

書式

何府縣何國何郡何村何番地住

身分職業

着(發)年月日時

何之誰

年齡

右ハ何用ニテ何地へ通行又ハ何用ニ付凡ソ何日滞在

第四條 宿泊人名簿ハ每月五日限リ(高松、丸龜、琴平、多度津、西條、

今治、松山、道後、三津濱、大洲、長濱、八幡濱、宇和島、各市街及接續町

村ニ於テハ隔日警察署又ハ分署若クハ交番所へ差出シ點檢ヲ受ク

ヘシ

但シ時宜ニヨリ警察官吏其家ニ就キ檢査スルコトアルヘシ

第五條 宿泊料定價ハ見易キ所ニ揭示スヘシ若シ上中下等ノ差アル

ルハ先ツ客人ノ望ヲ聞キ取扱フヘシ且ツ客ノ命セサル飲食物等ヲ

供シ別ニ代價ヲ請求ス可ラス

第六條 宿泊人ノ内身分不相當ノ物品ヲ携帯スルカ又ハ金錢遺方等

不審ト見認タルルハ速ニ警察官又ハ巡査ニ密告スヘシ

第七條 單身ノ旅人ト雖モ宿泊ヲ請フルハ故ナク拒絶スヘカラス

第八條 宿泊人身元調及搜索等ノ節ハ本人并ニ他ニ漏洩ス可ラス

第九條 宿泊人ヨリ預リタル物品ハ大切ニ保管シ且宿泊人外出中ハ其室内不取締無之様注意スヘシ

第十條 宿泊人變死又ハ所持ノ物品ヲ盜マレ若シクハ紛失セシ等ノ中ハ可成原態ヲ保存シ速ニ其事由ヲ警察署又ハ巡查ニ申告スヘシ  
但本文ノ場合ニ於テハ時宜ニ依リ宿泊人ハ勿論家族及ヒ雇人等ノ他出ヲ止メ置ヘシ

第十一條 宿泊人發病等ノ節ハ深切ニ看護シ其傳染病ニ罹ルモノト見認ムル中ハ速ニ警察官又ハ巡查ニ申告スヘシ

第十二條 外國人宿泊ヲ乞フルハ先ツ旅行免狀ノ有無ヲ問ヒ之ヲ所

持スルモノハ宿泊セシメ速ニ所轄警察署又ハ分署交番所及戸長役場ヘ届出スヘシ

但シ免狀處持セサルモノハ其旨届出指揮ヲ受クヘシ

第十三條 外國人ヲ宿泊セシムル節ハ先以テ其宿料及賄方等ノ約束ヲ定メ懇切ニ取扱ヲナスヘシ

第十四條 客引ト唱フルモノヲ出シ又ハ車夫等ニ喋合シ強テ旅客ヲ誘ヒ又ハ詐言ヲ用ヒ他人ノ營業ヲ妨害ス可カラス

第十五條 旅客ノ爲メニ遊藝師匠ヲ招キ又ハ自家ノ婦女雇人等ヲ以テ音曲ヲ弄セシメ藝妓ニ紛ハシキ所業ヲナシム可カラス

但シ藝妓又ハ遊藝稼人ヲ招クコトアルモ其時間ハ午前八時ヨリ午後十二時迄トス

第十六條 藝妓ト全層スルヲ得ヌ且ツ自家ノ婦女ヲシテ藝妓營業ヲ爲シシム可ラス

第十七條 宿泊料ヲ拂ハサル者アツテ衣類物品ヲ差押ヘサルヲ得サル場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署若クハ交番所ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第四章 陸運稼業

第一條 陸運稼業ノ内人力車營業並ニ渡守ヲ除クノ外ハ左ノ條々ヲ遵守スヘシ

第二條 陸運稼業ヲ爲サントスルモノハ處轄郡役處ヘ届出ヌヘシ

第三條 驛傳營業ニ供用スル牛馬諸車人力車ヲ除ク駕籠等ノ員數種類ハ開業ノ際處轄驛傳取締所ヘ届出スヘシ増減シタル時モ亦全シ

第四條 道路ノ中央又ハ行人ノ妨トナル場所ニ於テ乗客及ヒ荷物ヲ乗下ス可カラヌ

第五條 牛馬諸車ヲ並ヘ引キ或ハ一人ニテ二頭以上ノ牛馬ヲ使用スヘカラス

第六條 牛馬諸車ヲ使用シ雜踏又ハ狹隘ノ場所橋梁等ヲ通過スルハハ危害ナキ様特ニ注意スヘシ

第七條 車馬駕籠等ニ行逢フハ互ニ左ニ避クヘシ  
但シ軍隊並ニ砲車輜重車ニ行逢フトキニ限り右方ニ避クヘシ

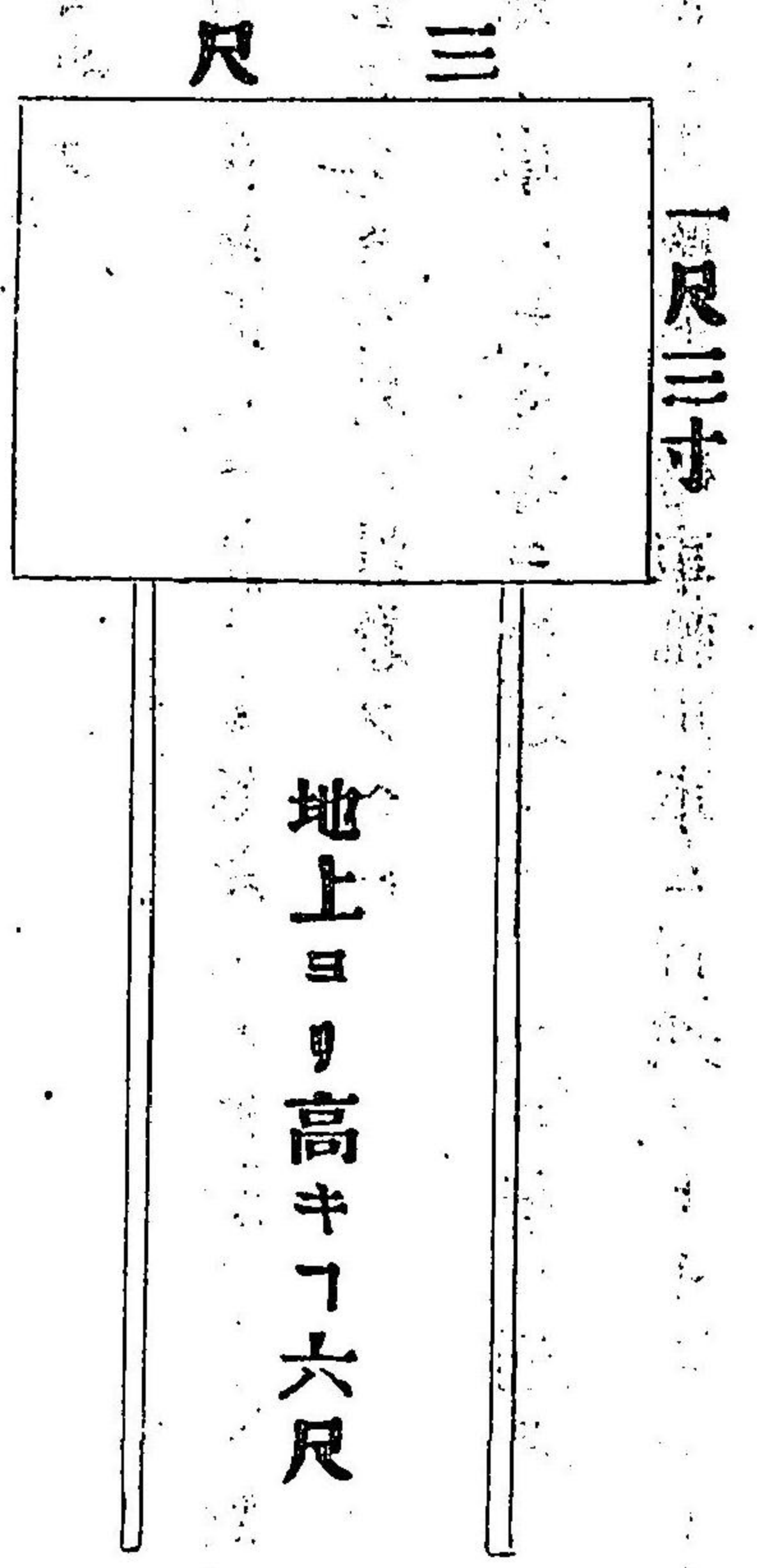
第八條 郵便脚夫ニ行逢フハ便宜之ヲ避ク可シ  
第九條 夜中燈火ナクシテ車馬駕籠等ヲ使用ヌ可カラヌ

第五章 渡守業

第壹條 渡守業ヲナサントスルモノハ縣廳へ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 渡船及徒歩渡シ賃額ハ左ノ雛形ニ準シ見易キ所へ賃錢定額

揭示スヘシ



第三條 渡船場ニハ水量票ヲ建設シ且ツ洪水川留ノ尺度ヲ揭示スヘシ

第四條 非常ノ風波又ハ川留ノ尺度ニ達シタル洪水ノ節ハ渡船ス可

カラスノ人

第五條 渡船定員ハ其船体應分ノ宜ヲ豫定シ之ヲ木標ニ記載シ船内

見易キ處へ打附置可シ

第六條 謂レナク渡船ヲ出サズ又ハ定員外ノ行人ヲ乗載ス可ラカス

第七條 左ノ各項ニ掲クル場合ハ渡船賃錢等請求スルヲ得ス

一 軍隊々伍ヲ組ミ行進ノ節

一 憲兵制服着用巡行ノ節

一 警察官并ニ巡查持區内巡視ニ付制服着用ノ節

一 電信配達人配達特ニ配達人タルヲ証スノ節服ヲ着シ配達スルノ節

一 郵便脚夫飛信并ニ郵便物遞送及ヒ集配人郵便局ヨリ相渡シタル

左ノ如キ印鑑所持ノ者製服着用否ニ通行ノ節

一郵便物遞送人及ヒ集配人制服着用若クハ郵便局ヨリ相渡シタル  
左ノ如キ印鑑所持ノ者通行ノ節印鑑離形従前之通り同年一月廿  
九日更正

表二 第 號

何國何地郵便局脚夫  
集配人 何之誰

二寸五分

裏二  
面寸

明治年月日



第六章

第壹條 人力車營業トハ左ノ各項ノ業ヲ營ムモノヲ云フ

一人力車ヲ貸シ又ハ自ラ所有車ヲ挽キ或ハ雇人ニ挽カシムルモノ  
一借車ヲ挽キ又ハ人力車營業者ニ被雇車ヲ挽クモノ

第二條 人力車ヲ所有シ營業ノ許可ヲ受ケタルキハ附錄第壹號第壹  
書式ニ依リ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三條 他人ノ車ヲ借り又ハ雇人トナリ營業ヲナサントスル者ハ附  
錄第一號第二書式ニ依リ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第四條 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡ノ節ハ第二號書式ニヨリ所轄警察  
署又ハ分署へ届出ヘシ

第五條 人力車鑑札ハ適宜見易キ所ニ打付ケ賃金表ハ附錄第三號書  
式ニ依リ木札ヲ以テ製シ蹴込正面へ釘付スヘシ

但シ甲地ノ車乙地へ賣渡シ又ハ讓渡シタル節ハ賃金表ヲ取除ケ



而シテ買受ケ又ハ讓受ケ新ニ營業ヲナスモノハ其組合ニ於テ定  
ムル所ノ賃錢表ヲ打付ヘシ

第六條 鑑札ヲ紛失遺失又ハ誤毀シタルキハ其旨郡役所ニ届出鑑札  
書換又ハ再渡ヲ乞フ可シ

第七條 挽夫ハ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

- 一 車体破損又ハ鑑札并ニ賃金表之ヲキ車ヲ使用ス可カラサルコト
- 二 行人ニ對シ強ク乗車ヲ勸メ又ハ侮慢無禮ノ言行ヲ爲ス可カラ  
サルコト

- 三 乗客アルキハ先ツ其行先ト賃金トヲ約定スヘシ若シ之ヲ粗漏  
ニシ車ヲ半途ニシテ止メ又ハ定額外ノ賃金ヲ請求スル等ノ所  
爲アルヘカヲサルコト

四 壹人乗ニ二人二人乗ニ三人以上乗ス可カラサルコト

但シ十二歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ六歳未満ハ  
定員外トス

五 客ヲ求ムルコトメ往來ヲ遮リ又ハ車ヲ止メ若シクハ客待中數車  
ヲ道路ノ兩側ヘ連テ置キ通行ノ妨害ヲ爲ス可カラサルコト

但シ他人ノ軒下ニ置クキハ其承諾ヲ得ヘシ

六 貸坐敷營業者及ヒ宿屋又ハ料理屋ト馴合乗客ノ望アラサル處  
ヘ車ヲ挽キ行ク可ラサルコト

七 乗客ノ承諾ヲ得スシテ途中他ノ車ト交換ス可ラサルコト

八 車内ニ遺留品アルキハ其主分明ナレハ速ニ之ヲ還付シ否ラサ  
レハ其地町村戸長役場ヘ届出ヘシ

九 乗客傳染病ヲ發シタルキハ速ニ最寄警察署又ハ分署交番所若クハ巡行ノ巡查ニ届出可キヲ

十 夜間燈火ナクシテ車ヲ挽ク可カラヌ尤モ燈ニハ車ノ番號並ニ持主又ハ挽夫ノ住所氏名ヲ墨書スヘキヲ

十一 制止ヲ肯ンセスシテ人ノ群集シタル場所へ車ヲ挽キ入ル可カラサルヲ

十二 車ヲ並へ挽キ行人ノ妨害ヲ爲ス可カラサルヲ  
十三 壹人ニテ貳輛以上ノ車ヲ連テ挽ヘカラサルヲ

但シ空車貳輛ヲ連ルハ妨ナシ

十四 火災ノ節ハ其場貳丁以内ニ車ヲ挽キ入ル可カラサルヲ

十五 往來雜踏ノ場所若クハ街角橋梁ヲ通過スル時ハ徐歩スヘキヲ

十六 諸車並ニ車馬駕籠等ニ行遇フ時ハ左方ニ避ク可キヲ

但シ軍隊并ニ砲車輜重車ニ行遇フキニ限り右方ニ避ク可シ

十七 前車徐行シ後車疾行スルキハ前車ハ便宜之ヲ避ケ後車ノ通過ヲ妨ク可カラサルヲ

十八 土地不案内ノ旅人又ハ老幼婦女或ハ病者醉客等ヲ乗セタルキハ最モ注意ヲ加フ可キヲ

十九 數車輻湊シ乗客ヲ待ツキハ豫メ其順序ヲ定メ置キ徒ニ乗客ヲ待サセル等ノ所爲アル可カラサルヲ

但シ乗客ノ指名スルニ於テハ順序アルヲ以テ妨ク可ラヌ  
二十 郵便脚夫ニ行遇フ時ハ便宜之ヲ避クヘシ

●甲第十五號十九年一月廿九日

客年十一月十一日 甲第百四十六號布達驛傳營業取締細則中左記之通り更正ス

第五章

第七條 第五項

一郵便物遞送人及集配人制服着用若クハ郵便局ヨリ相渡シタル左ノ如キ印鑑所持シ者通行ノ節 印鑑離形從前之通り

第六章

第五條 人力車賃金表ハ附録第三號書式ニ依リ木札ヲ以テ製シ貼込

正面ヘ釘付スヘシ

但書從前之通り

第六條 削除

第七條ヲ第六條トシ以下順次繰上

第六條中

- 一 車体破損又ハ賃金表ナキ車ヲ使用ス可ラサル
- 十 夜間燈火ナシシテ車ヲ挽ク可ラヌ尤モ提灯ニハ持主又ハ挽夫ノ住所氏名ヲ墨書スヘキ

●甲第八號十九年一月廿二日

客年甲第四十六號ヲ以テ驛傳營業取締規則布達候ニ付テハ地方稅營業者中運漕店并ニ旅籠屋ニ係ル營業届等總テ古着古道具古金商營業ニ準スヘシ

●縣令第八號十九年九月二日

明治十八年十一月十一日 甲第百四十六號布達驛傳營業取締細則第二章第一條

中第四條トアルヲ第五條ト改正ス

●甲第四十四號十九年三月廿三日

明治十八年十一月十一日 甲第百十三號布達驛傳營業取締規則及細則左之通追加并ニ更正ス

驛傳營業取締規則第七條ノ次へ左ノ一條ヲ追加シ第八條ヲ第九條トシテ以下順次繰下ケ

第八條 驛傳營業取締人ハ認可ヲ受ケタル後ト雖モ不適任ト見認ムルハ改撰ヲ命スルコトアルヘシ

驛傳營業取締規則第壹章第壹條ノ次へ左ノ一條ヲ追加シ第二條ヲ第三條トシ以下順次繰下ケ

第二條 營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

三尺

七寸

陸運請負業  
姓名

全取締細則第壹章第九條更正

第九條 特別通常ノ區別ニ依リ運送物ノ損傷ハ請負者ヨリ價ヲ以テ辨償スヘシ

但書從前之通

全取締細則第二章第一條ノ次へ左ノ一項ヲ追加シ第二條ヲ第三條トシテ以下順次繰下ケ

第二條 營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店ニ掲クヘシ

三尺

寸七  
人馬繼立業  
姓名

全取締細則第五章第七條第三項更正ス

一警察官并ニ巡査制服着用及監獄ノ看守押丁囚人護送ノ節

明治十七年甲第七號

明治十六年第五十號公布古物商取締條例ニ依リ細則別冊之通り制定ス

但シ從前ノ選指令等別冊ト抵觸スルモノハ取消ス

古物商取締細則

第壹條 從來古物商營業者ニシテ今般引續キ營業ヲナサント欲スル

者ハ附錄第一號新規營業ハ全第二號支店又ハ出張店ヲ設ケント欲スルモノハ全第三號ニ依リ所轄警察署へ願出許可ヲ受ケ而後附錄第四號ニ依リ看板ヲ調製シ全第五號ニ依リ檢印ヲ受ケ店頭ニ掲クヘシ

但シ市場ヲ開キ又ハ床店露店ニテ販賣ヲナサントスル者ハ本條ニ準シ出願許可ヲ受ケ而後附錄第十一號雛形ノ木札ヲ製シ檢印ヲ受ケ見易キ箇所ニ掲クヘシ

第二條 免許營業者ニシテ行商ヲナサント欲スルカ又ハ其家人雇人ヲシテ之ヲ爲サント欲スル者ハ更ニ附錄第六號ニ依リ鑑札下渡ヲ出願シ一人毎ニ申受ク可シ鑑札ヲ携帯セサル者ハ行商ヲ爲ス可カラス

第三條 營業者ハ所轄警察署ノ區畫ニ從ヒ一種類毎ニ組合ヲ設ク可シ尤モ全業者寡少ナル中ハ數種類合同組合ヲ設ク難キカ又ハ遠隔孤立ノ場所ニシテ組合ニ入り難キ事情アルモノハ所轄警察署ニ申立テ許可ヲ受ク可シ

第四條 各組合毎ニ頭取一名副頭取一名以上ヲ撰定シ其人名并ニ組合名簿ヲ製シ所轄警察署ヘ差出ス可シ尤モ警察署ニ於テ頭取副頭取ノ改撰ヲ命スルコアルヘシ

但シ盜罪詐偽取財ノ罪若クハ賭博罪及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條又ハ該條例ヲ犯シ處斷ヲ受ケタル者ハ頭取副頭取トナルヲ許サス

第五條 營業ニ關スル諸願伺届等ハ組合頭取及組合内ヲ分轄セル副

頭取連署ノ上差出スヘシ

第六條 雇人替改姓名所轄内轉居等ノ爲メ鑑札又ハ看板ノ書換ヲ要スルカ或ハ水火盜難過誤等ニテ鑑札又ハ看板ヲ破損亡失シタルキハ附録第七號ニ依リ顛末詳細ノ手續書破損亡失ノキニ限ルヲ添ヘ鑑札引換又ハ下附或ハ看板檢印ノ義出願スヘシ

第七條 廢業スルカ又ハ行商ヲ止メタルキ或ハ所轄外ヘ轉住ノ節ハ附録第號ニ依リ鑑札或ハ看板ヲ添ヘ届出ヘシ

第八條 鑑札及看板ハ貸借スルコトヲ許サス

第九條 盜罪詐偽取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヲ警察署ヨリ通達シタル中ハ一々寫取リ十年間保存スヘシ

第拾條 物品ヲ他府縣へ運送セントスルハ三日前ニ附錄第九號ノ書式ニ依リ目錄二通ヲ作り所轄警察署又ハ分署へ届出其一通ニ警察官吏ノ檢印ヲ受ケ物品ニ添へ送附スヘシ他府縣ヨリ運送シ來ル物品ヲ受取アルハ該府縣警察官吏ノ檢印ヲ受ケタル目錄ヲ添へ第九號ノ書式ニヨリ五日內ニ所轄警察署又ハ分署へ届出可シ  
十九年甲第壹號ニテ如斯改正

第十一條 品觸ニ類似ノ物品買取等ヲナスハ條例第十一條ニ從ヒ届出スルハ勿論縱令品觸ナシト雖モ不正品ト見認ルカ又ハ身分不相應ノ物品ト思料スルハ可成手段ヲ以テ其者ヲ留置キ若シ留置クヲ得ザルハ住所氏名ヲ問ヒ速ニ警察官へ密告スヘシ物品ノ模様變又ハ修覆等ノ詭ヲ受ケタルハモ亦全シ

第十二條 條例ニ從ヒ物品賣買交換明細簿品觸謄寫簿及受刑者通達謄寫簿ハ附錄第十號ニ依リ調製シ夫々記載スヘキハ勿論尙空行ナキ様記入シ且帳簿ノ表面ニ紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印及ヒ封印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿ハ大切ニ保存スルハ勿論ナレモ若シ之ヲ亡失シタルハ其理由ヲ詳記シ二日以内ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

但警察署遠隔ナル場所ハ所轄分署又ハ最寄交番所へ差出スモ妨ケナシ

第十四條 頭取ハ組合一般ヲ統轄シ副頭取ハ組合内ヲ分轄シ法令ヲ遵守セシムルハ勿論一切ノ取締ヲ爲ヌヘシ

第十五條 頭取ハ組合名簿頭取ト分轄内名簿ヲ備置キ増減轉換アル  
毎ニ加除スヘシ

第十六條 頭取ハ警察署ヨリ品觸若クハ受刑者ノ通達毎ニ直チニ組  
合營業者へ通報シ其了承ノ証ヲ取り速ニ警察署又ハ分署へ差出ス  
ヘシ

但シ頭取副頭取旅行等ノ爲メ不在中ハ代理者ヲ定メ其旨届出置  
クヘシ

第十七條 組合ニ關スル費用ハ組合營業者ニ於テ分擔スヘシ

第十八條 分署所轄内ノ古物商ハ條例並細則ニ關スル願届等ハ總テ  
其分署ヲ經テ所轄警察署へ差出ス可シ

●甲第五十七號十七年四月十二日

本年甲第七號甲第七號古物商取締條例細則中左ノ通改正追加刪  
除ス

一第壹條へ左ノ通作書ヲ追加ス

但シ市場ヲ開キ又ハ床店露店ニテ販賣ヲナサントスル者ハ本條

ニ準シ出願許可ヲ受ケ而後附録第十一號ノ雛形ノ木札ヲ製シ檢

印ヲ受ケ見易キ箇所へ掲クヘシ

一第拾條拾三條左之通改正ス

第拾條 條例第九條ノ届書ハ附録第九號ニ依リ他府縣へ運送セント

スルキハ三日前他府縣ヨリ受取りタルキハ二日以内ニ所轄警察署

又ハ分署へ正副三通差出スヘシ

第拾三條 前條ノ帳簿ハ大切ニ保存スルハ勿論ナレモ若シ之ヲ亡失



シタルキハ其理由ヲ詳記シ二日以内ニ所轄警察署へ届出ヘシ

但シ警察署遠隔ナル場所ハ所轄分署又ハ最寄交番所へ差出スモ

妨ナシ

一第壹條第三條第四條第九條第拾二條第拾六條中(又ハ分署)ノ四字悉皆删除ス

一左ノ通り第十八條ヲ追加ス

第十八條 分署所轄内ノ古物商ハ條例並ニ細則ニ關スル願届等ハ總

テ其分署ヲ經テ所轄警察署へ差出ス可シ

●甲第百八十三號十七年十月卅一日

彫刻營業取締規則

第壹條 彫刻業トハ金屬若クハ木石等ヲ以テ各種ノ印章及ヒ諸證券

ノ版面ヲ彫刻又ハ鑄造スル營業者ヲ云フ

但シ自ラ彫刻鑄造ヲ爲サスト雖モ販賣スル者及ヒ活字ヲ組立ツ

ル者亦本則ニ從フ可シ

第二條 營業ハ附錄第壹號ニ準シ所轄警察署へ願出スヘシ

第三條 營業ノ許可ヲ受ケタルキハ附錄第貳號ニ準シ看板ヲ調製シ

全第三號ニ準シ檢印ヲ受ケ店頭ニ掲クヘシ若シ露店ナルキハ之ヲ

表出スヘシ

第四條 營業者ハ附錄第四號ニ準シ註文明載帳及ヒ判下綴込帳ヲ製

シ註文明載帳ニハ所轄警察署ノ檢印及ヒ封印ヲ受クヘシ

第五條 註文明載帳ニハ其註文シタル者ノ住所氏名年齢並ニ月日及

種類ヲ詳記シ其印判ノ類ハ其氏名ノ上ニ押寫シ証券類ハ版下綴込

帳ニ綴置キ後証ニ供スヘシ

第六條 註文ヲ受ケタル中不審ト見認タル中ハ速ニ警察官吏ハ密告スヘシ

第七條 左ノ各項ニ係ル註文ヲ受ケタル中ハ註文主ヨリ依頼証ヲ受取り版下ト共ニ保存スヘシ

一官印又ハ國立私立銀行及ヒ諸會社ノ發行スル諸手形並株券私債証書版面其他學校病院諸會社等ノ印章類ノ彫刻

二磨滅欠畫等ニテ舊印ノ改刻

第八條 出來合判(三文判ト稱スルモノ)ノ類ヲ販賣スル中ハ註文明載帳へ買受人ノ住所氏名及ヒ月日ヲ記載シ其印鑑ヲ氏名ノ上ニ押捺スヘシ

第九條 註文明載帳版下綴込帳ハ大切ニ保存スヘシ若シ汚損亡失アル中ハ其事由ヲ詳記シ二日以内ニ所轄警察署へ届出スヘシ

但シ警察署遠隔ノ場所ハ分署又ハ巡查交番所へ差出スモ妨ナシ

第十條 改氏名所轄内轉居等ノ爲メ看板ノ書換ヲ要スルカ或ハ水火難等ニテ看板ヲ破損亡失シタル中ハ附録第五號ニ準シ事由詳細ノ手續書(破損亡失ノ中ニ限ル)ヲ添へ看板檢印ノ義出願スヘシ

第十一條 廢業又ハ所轄外へ轉住ノ節ハ附録第六號ニ準シ看板ヲ添へ届出ヘシ

第十二條 看板ハ貸借讓與スルヲ許サス

第十三條 警察官吏ハ時宜ニ依リ註文明載帳版下綴込帳等ヲ檢査スルヲアルヘシ

第拾四條 營業上ニ關シテハ雇人等ノ所爲ト雖モ營業者一切其責ニ任スヘシ

第拾五條 此規則ニ違反シタルモノハ刑法違警罪ヲ以テ處分セララルヘシ且其處犯シテ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコアルヘシ

●甲第七拾七號十八年六月十二日

明治十七年甲第百八十三號布達彫刻營業取締規則第三條ノ次ヘ左條ヲ追加シ全規則第拾貳條看板ノ下ヘ鑑札ノ二字ヲ插入ス但シ第四條以下順次繰下ケ

第四條 營業者ニシテ管内出職ヲサントスル者ハ所轄警察署ヘ願出々職鑑札ヲ受クヘシ

但シ出職ヲナシタル節ハ其地警察署又ハ分署交番所ヘ届出ヘシ

●甲第八拾二號明治十八年六月十三日

官林取締規則別紙ノ通相定ム右布達候事

官林取締規則

第壹條 入林鑑札ヲ携帯セサルモノハ官林内ニ立入ル可ワス

但借地土石堀採並立損木及一季副産物(筍豊等ヲ云フ)ノ拂下ヲ受ケタルモノハ此限ニ非スト雖モ其許可ヲ得タル指令等ノ寫携帶スヘシ

第貳條 入林鑑札ハ郡役所ニ於テ相渡ス可クニ付落葉檜株下草芝ノ許可ヲ得タルモノハ右受取方各自全處ヘ申出スヘシ

第三條 入林鑑札ハ私ニ貸借スルヲ得ス

第四條 官有立損木ノ拂下ヲ受ケ之ヲ伐採スルキハ土際ヨリ五寸以上ヲ殘シ其椽根ヲ掘取ルヘカラス

第五條 拂下木ノ椽根ニ打込アル檢印ハ必ス存置ス可シ

第六條 立損木及一季副産物ノ拂下ヲ受ケタルモノハ其伐採掘取期限前以テ郡役所ヲ經テ當廳ヘ届出スヘシ右期限内採取シ得サル殘存物ハ總テ拂下ノ効ナキモノトス

第七條 第壹條第三條第四條ニ違背シタルモノハ違警罪トナシ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●甲第百廿五號十八年九月十八日

本年六月本縣甲第八拾貳號布達官林取締規則中第六條左之通改正ス立損木及ヒ一季副産物ノ拂下ヲ受ケタルモノハ其採伐掘取期限前

以テ郡役所ヲ經當廳ヘ届出ヘシ右期限内ニ採取シ得サル殘存物ハ總テ其採取權ヲ失ヒタルモノトシ官ニ入レ該代金ハ下戻サス

●甲第百六拾七號十八年十二月五日

本年六月甲第八拾貳號全九月甲第百廿五號布達中左之通更正ス

甲第八拾貳號第二條中鑑札ハノ下(郡役所)ノ三字ヲ(農商務省愛媛山林事務所)ノ十一字ニ改ム

甲第百二十五號第六條中(當廳)ノ二字ヲ(農商務省愛媛山林事務所)ノ十一字ニ改ム

●甲第百九號十七年六月七日

金銀貨紙幣ニ似寄ノ玩弄物并ニ菓子類ヲ製造又ハ販賣セントスル者ハ處轄警察署ノ許可ヲ受ク可シ若シ許可ヲ得スシテ製造販賣シタル

者ハ本縣違警罪第貳條ニ依リ處分ス

●甲第拾號明治十八年二月十七日

自今摺附木製造ニ黃燐ヲ用ユルヲ禁ス若シ之ニ違犯シタル者ハ本縣  
違警罪第壹條ニ依リ處分ス

右布達候事

●縣令第三拾四號明治廿年二月十二日

明治十七年本縣甲第百九號及明治十八年本縣甲第拾號布達中本縣違  
警罪云々トアルヲ左ノ通り改正ス

刑法第四百廿七條第八項ニ據リ處分セラレハシ

●明治十六年甲第廿一號

河豚販賣ノ義ニ付嘗テ及布達置候次第モ有之候處自今乾魚ヲ除クノ

外右販賣禁止候條此旨布達候事

●明治十六年甲第廿五號

路傍廁圍取締規則左之通相定メ來ル五月一日ヨリ施行候條此旨布達  
候事

路傍廁圍取締規則

第壹條 公衆ノ便ニ供スル爲メ路傍ニ廁圍ヲ設置セントスルハ場  
所及口構造ヲ詳記シタル圖面相添ヘ戸長並ニ衛生委員ヲ經テ處轄  
警察署若クハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第貳條 廁圍ヲ設置スルハ井泉ヲ距ル少クモ三間以外可成往來稀粗  
ノ個處ヲ擇ムヘシ

但シ不得止ルキハ三間以内ト雖モ許用スルヲアルヘシ

第三條 廁圍ノ構造ハ左ノ方法ニ從フベシ

第一項 糞尿池ハ成ルヘク陶製ヲ用ヒ又ハ漆喰土ヲ以テ構造スルモ不苦若シ止ムヲ得スシテ他ノ器物ヲ用ユルキハ不朽堅牢ノ物質ヲ撰ミ粗製脆弱ノモノヲ用ユヘカラス

第二項 糞尿池ノ周圍ハ遍ク漆喰土又ハ粘土ヲ填塞シ汚液ノ滲透ヲ防クヘシ

第三項 廁圍ノ建設周圍ノ裝置ハ概畧左ノ如シ

第四條 廁圍ハ屢々之ヲ汲取リ漏溢ノ患ヲ防キ且其周邊ヲ掃除シ不潔ナカラシムヘシ

第五條 受持人ニ於テ前條ノ掃除汲取又ハ修繕ヲ怠リタルキハ警察署又ハ巡行巡查ハ其受持人ニ督責シ尙其示命ニ從ハサルキハ他ノ

者ニ命シ汲取リ或ハ掃除セシメ其費用ハ受持人ヨリ支辨セシムルヲアルヘシ

第六條 此規則ヲ施行スルハ違警罪第四拾四條ニ掲クル個所トス

●明治十四年甲第二百拾九號

飲食物及小兒玩弄品着色料取締規則左之通相定候條此段布達候事

飲食物及ヒ玩弄品着色料取締規則

第一條 飲食物及ヒ小兒玩弄品彩色料ハ從來慣用ノ品種ト雖モ第二條ニ掲クルモノ、外ハ其品名成分製法及產地等ヲ詳記シ現品ヲ添ヘ伺出ヘシ

第二條 無害着色料ハ左ノ如シ  
赤色之部

ヘンガラ

一名鉄丹即チ  
第二ノ酸化鉄

茜草

猩臙脂

ニセニルヲ以  
テ製シタルモノ

蘇木

日本紅

紅色ヲ以テ  
製スルモノ

黄色之部

山梔子

黄柏

鬱金粉

但鬱金砂ハ毒ア  
リ用ユヘカラス

泊芙蘭

ズミ並ニ煉ズミ

カソ梨ノ皮ヲ以  
テ製シタルモノ

青色之部

日本藍

藍葉ヲ以テ  
製スルモノ

青粉

野菜ヲ以テ  
製スルモノ

末茶

紫色之部

紫根

黑色之部

木炭

油煙

金色並ニ銀色之部

金箔

銀箔

以上拾八種ハ諸食物並ニ玩弄品ノ着色ニ用ユル品類ニシテ單味或  
ハ調合ニ用ユルモ妨ナシ

胡粉 (炭酸石炭)

眞鍮箔

銅箔

錫箔

以上小兒ノ舐ルヘキ玩弄品ニハ用ユヘカラス

角粉

石膏

砥ノ粉

地之粉

黄土

代赭石

麒麟竭

玉墨

以上拾二種ハ玩弄品ノ着色ニ用ユル品類ニシテ此品類及前項十八種ノ内單味或ハ調合シ用ユルモ妨ナシ

●甲第百拾四號明治十八年九月七日

貸座敷營業取締規則

第壹條 貸座敷營業取締規則ハ左ニ記載スル場所ニ限ルヘシ

讚岐國

香川郡

高松八重垣

阿野郡

坂出明神町

那珂郡

(丸龜西平山町字新堀  
琴平内町金山寺町)

多度郡

多度津西濱

伊豫國

和氣郡

三津住吉町

温泉郡

道後松ヶ枝町

第貳條 貸座敷業ヲ營マント欲スル者ハ第壹號書式ニ倣ヒ所轄警察署へ願出免許鑑札ヲ受ク可シ尤モ免許鑑札ハ其年四月ヨリ翌年三月迄

ルモノトス滿期ニ至レハ鑑札ヲ返納シ尙ホ營業ヲナサントスル者ハ第壹號書式ニ準シ鑑札書換ヲ願出ヘシ

但シ華士族ニハ貸座敷營業ヲ許サス

第三條 貸座敷ハ一區域中又ハ一警察署所轄内他ノ免許地へ移轉或



ハ代換改名等ヲナシ其他免許鑑札水火盜難誤毀紛失遺失セシキハ  
第二號書式ニ倣ヒ所轄警察署へ鑑札書換又ハ再渡ヲ願出ヘシ

第四條 貸座敷業ヲ廢セント欲スルキハ第三號書式ニ倣ヒ所轄警察  
署へ届出鑑札返納スヘシ他管へ移轉セントスルキ又全シ

第五條 貸座敷營業免許ヲ受ケタル者ハ第四號雛形ニ倣ヒ看板ヲ店  
頭見易キ箇所ニ掲クヘシ

但シ夜分ハ軒行燈ヲ掲クヘシ

第六條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ許サス

第七條 貸座敷營業ノ者賦金ハ(金額ハ別段ノ布)其月五日限(新ニ開業ノ者ハ)取締人へ差出スヘシ(達ニ從フヘシ)

但シ開業廢業ノ月ハ營業日數一ヶ月ニ滿タスト雖モ賦金全額ヲ

上納スルモトス

第八條 貸座敷營業願出免許鑑札下附ノ節ハ鑑札料(金額ハ別段ノ)  
直チニ取締人へ差出スヘシ書換或ハ再渡ヲ受ケタルキ又全シ(布達ニ從フ)

第九條 貸座敷免許地區域内毎ニ貸座敷營業人ノ内ニテ正副取締ニ  
名以上ヲ互撰シ全業及ヒ娼妓營業上取締ヲナスヘシ

但シ任期給料其他費用等ハ全業人ノ協議ニ任スト雖モ所轄警察  
署へ届出ヘシ

第十條 取締人ヲ撰定シ又ハ改撰等ノ節ハ全業者ノ内ヨリ其都度住  
所氏名ヲ詳記シ戸長役場ヲ經テ所轄警察署へ届出認可ヲ受クヘシ  
但シ警察署ニ於テハ時宜ニヨリ改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第十壹條 貸座敷營業上ニ關スル規程約束等ヲ設クルハ同業人ノ協

議ニ任スト雖其都度所轄警察署へ届出認可ヲ受クヘシ

第拾貳條 娼妓他ノ席へ移轉レ或ハ廢業センコトヲ請フルハ速ニ其願書又ハ届書ニ加印スヘシ故ナク故障ヲ爲スヘカラス

第拾三條 娼妓免許貸座敷外ニ於テ營業ハ勿論宿泊ヲサシムヘカラス若シ止ムヲ得サル事故アリ一泊以上ノ他行ヲ要スル時ハ所轄警察署又ハ分署へ願出認可ヲ受ケサシムヘシ

第拾四條 娼妓へ各種ノ名義ヲ以テ金錢物品等ヲ貸與ヘ其身ヲ束縛レ或ハ父兄及日本人ノ承諾ナキモノヲ勸誘シ強テ娼妓ノ業ヲ爲サシム可カラス

第拾五條 娼妓ヲシテ黴毒検査規則ニ從ヒ検査ヲ受ケサシム若シ黴毒感染ノ兆アルルハ驅黴院又ハ病院ニ入り治療セシムヘシ尤モ退入

院シタルルハ速ニ所轄警察署へ届出ヲ爲サシムヘシ

第拾六條 娼妓ニ非サル婦女ニ席ヲ貸シ猥褻ノ所業ヲ爲サシムヘカラス

第拾七條 娼妓ニ店セテ張セ又ハ遊興ヲ強ル等ノ所爲アルヘカラス

第拾八條 遊客ノ求メサル酒食ヲ出シ又ハ強ル等ノ事ハ勿論遊興費ノ抵償トシテ衣類物品等ヲ差押フ可カラス

第拾九條 娼妓ニシテ其規則ニ背キ或ハ約束ニ違フ者アルモ決シテ不法ノ所爲アルヘカラス其犯則ニ係ルモノハ所轄警察署又ハ分署若クハ交番所へ訴出ヘシ

第二十條 貸座敷營業ノ者ハ第五號雛形ノ遊客名簿ヲ製シ書式ニ

照シ直々ニ詳記シ毎朝八時限リ貸座敷取締人へ差出シ甲乙簿册ヲ交換スヘシ取締人ハ即日所轄警察署又ハ分署若クハ交番所へ差出檢印ヲ交クヘシ

但シ警察官及ヒ巡査ヲシテ臨時檢査セシムルコトアルヘシ

第廿壹條 人相書ヲ以テ檢査方達セラレタルキハ帳簿へ記載シ置キ遊客ニ注意スヘシ

第廿貳條 遊客中不相應ノ金錢財物ヲ所持シ又ハ浪費シ其他不審ノ者ト見聞シタルキハ速ニ最寄警察署又ハ分署若クハ交番所巡行巡査へ密告スヘシ

第廿三條 此規則ニ違背シタル者ハ參拾圓以内ノ過料又ハ六ヶ月以内ノ懲戒ニ處ス其情狀ニ依リ仍ホ其業ヲ停止又ハ禁止シ若ク

ハ單ニ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第廿四條 貸座敷營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルキハ其營業者ヲ處罰ス

但シ雇主不在ノ時ハ擔當人其責ニ任ス

第廿五條 過料ハ十日以内ニ納完セシム若シ限内ニ納完セサル者ハ金貳拾五錢ヲ一日ニ折算シ懲戒ニ換ヘ其廿五錢ニ滿タサル者モ尚ホ一日ニ折算ス

但シ懲戒ニ換フト雖モ其限内過料ヲ納メタルキハ其經過シタル日數ヲ控除シ懲戒ヲ免ス親族其他ノ者代テ過料ヲ納メタルキ亦同シ

娼妓營業取締規則

第壹條 娼妓營業ハ免許貸座敷營業地一區域内ニ限ルヘシ

第貳條 左ノ諸項ニ觸ル者ハ娼妓營業ヲ許サズ

一 一人ノ妻及養女タル者

二 華土族ノ婦女

三 懲毒其他惡疾アル者

四 年齢十六歳未滿三十歳以上ノ者

五 免許貸座敷ニ住所ヲ定メサル者

第參條 娼妓營業ヲナシトスル者ハ其屬籍ニヨリ第壹號第貳號

書式ニ倣ヒ願書ハ戶籍寫書ヲ添ヘ所轄警察署ヘ差出シ免許鑑札

ヲ受クヘシ

但シ他府縣ノ者ハ第三號書式ニ倣ヒ原籍所轄警察署又ハ郡役

所ノ添書共相副フヘシ

第四條 營業免許鑑札ハ一期(其年四月ヨリ翌年三月迄)効アルモ

ノトス滿期ニ至レハ鑑札ヲ所轄警察署ヘ返納シ尙ホ營業ヲナサ

ントスルモノハ更ニ第壹號書式ニ準シ鑑札書換ヲ願出ヘシ

第五條 免許鑑札水火盜難誤毀紛失シ遺失シ又ハ改名等ノ節ハ第

四號書式ニ倣ヒ所轄警察署ヘ願出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第六條 娼妓一區域中又ハ一警察署所轄内地ノ免許地へ移轉セン

トスル節ハ第五號書式ニ倣ヒ所轄警察署ヘ願出鑑札書換ヲ請フ

ヘシ

但シ警察署所轄違ノ免許地へ移轉セントスルモハ第五號書式

ニ倣ヒ其旨届出ヘシ尙ホ移轉先ニ於テハ同書式ニ倣ヒ鑑札書

換ヲ願出ヘシ

第七條 娼妓廢業セントスル者ハ第六號書式ニ倣ヒ所轄警察署ヘ届出鑑札返納スヘシ他管ヘ移轉セントスル者モ又全シ

第八條 娼妓客席ハ出ルルハ營業鑑札ヲ携帯スヘシ且ツ鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ許サス

第九條 娼妓ハ客ノ誘引タリニ免許貸座敷外ニ於テ營業ハ勿論宿泊スルヲ許サス若シ止テ得サル事故アリテ一泊以上ヲ要スル他行ヲ爲スルハ第七號書式ニ倣ヒ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可証ヲ携行スヘシ

第十條 娼妓營業者ノ賦金ハ(金額ハ別段布達ニ從フヘシ)其月五日限り(新ニ開業ノ者ハ即)取締人ヘ差出スヘシ

但開廢業ノ日營業日數一ヶ月ニ滿タスト雖モ賦金全額ヲ上納スルモノトス

第十壹條 娼妓營業鑑札願出下附之節ハ鑑札料(金額ハ別段ノ布直達ニ從フヘシ)ニ取締人ヘ差出スヘシ

但書換又ハ再渡ヲ受ケタルモ亦全シ

第十貳條 娼妓ハ梅毒検査規則ニ從ヒ検査ヲ受ケ若シ梅毒感染ノ兆アルモハ驅棹院又ハ病院ニ入り治療ヲ受クヘシ尤モ入院シタルモ

ハ第八號書式ニ倣ヒ其旨所轄警察署ヘ届出ヘシ但シ入院中賦金ハ日割ヲ以テ免除ス

第十參條 娼妓梅毒ニ感染シタルモハ營業ヲナス可カラズ

第十肆條 何事ニ限ラヌ遊客ノ所業不審ナルヲ見聞スルモハ速ニ席

主ニ密告スヘシ

第拾五條 此規則ニ違背シタル者ハ三拾圓以内ノ過料又ハ六ヶ月以内ノ懲戒ニ處ス其狀情ニヨリ仍ホ其業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第拾六條 過料ハ十日以内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ金貳拾五錢ヲ一日ニ折算シ懲戒ニ換フ其貳拾五錢ニ滿タサル者モ仍ホ一日ニ折算ス但懲戒ニ換フト雖モ其限内過料ヲ納メタル中ハ其經過シタル日數ヲ控除シ懲戒ヲ免ヌ親屬其他ノ者代テ過料ヲ納メタル中亦全シ

貸座敷及娼妓取締人心得

第壹條 取締人ハ一區域内貸座敷及娼妓營業上總テノ取締ヲナスヘシ

第貳條 娼妓營業ノモト可成正業ニ遷ラシムル様常ニ注意スヘシ

第參條 受持區内貸座敷及娼妓營業ニ關スル諸願届書ニハ總テ連印ヲナスヘシ

第四條 貸座敷及娼妓ノ賦金ハ毎月取纏メ各前書ヲ添ヘ其月五日限リ戸長役場ヘ差出スヘシ

但シ開業ノ月ハ即日賦金取立ツヘシ且ツ事故アリ廢業(其月五日  
日前ニ  
係ル)届出スル節ハ鑑札並ニ賦金取立テ直ニ戸長役場ヘ差出スヘシ

第五條 貸座敷及娼妓鑑札料ハ其都度直ニ取立戸長役場ヘ差出スヘシ

第六條 貸座敷營業人ヨリ毎朝差出ス遊客名簿ヲ受ク即日所轄警察署又ハ分署若クハ交番所へ持参シ警察官又ハ巡查ノ認印ヲ受クヘ

第七條 受持區域内貸座敷及娼妓營業人名簿ヲ調製シ各本籍氏名年齢開廢業ノ年月日其他必要ノ條件(假令ハ受罰懲毒)ヲ詳記シ置臨時警察署取締ノ用ニ供スヘシ(感染逃亡他行類)

第八條 貸座敷及娼妓營業上ニ關スル諸達ハ便宜方法ヲ以テ其營業者中へ熟知セシムヘシ

第九條 警察署又ハ分署ヨリノ人相書ヲ以テ搜索方通達アリタル中ハ直ニ貸座敷營業者へ通知スヘシ

第十條 貸座敷及娼妓營業者取締規則並ニ懲毒検査規則其營業ニ關

スル諸達等ニ違背セサル様常ニ注意シ尙ホ了解セサル者ハ懇篤教諭スヘシ若シ違背者アラハ速ニ所轄警察署又ハ分署交番所へ訴出スヘシ

●甲第百貳拾九號明治十八年十月七日

娼妓梅毒検査規則

第一條 娼妓ハ毎週壹回必ス梅毒有無ノ検査ヲ受クヘシ

但定日ハ驅梅院ヨリ告示スヘシ

第二條 検査ノ上病毒ナキモノハ別紙様式ノ検査証ヲ下附ス若シ病毒アルモノハ直チニ入院治療セシムルモノトス

第三條 検査ハ道後松ヶ枝町ハ祝谷驅梅院丸龜新堀ハ丸龜驅梅院高松八重垣ハ高松病院ニ於テシ其他ハ驅梅院醫員検査場ニ於テ之ヲ

行フヘシ

第四條 三津住吉町多度津西濱坂出明神町へハ必ス検査場ヲ設クハ  
シ

但シ琴平ハ従前驅梅院ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第五條 娼妓自ラ感染ノ徴アリト思料シタル中ハ驅梅院又ハ検査場  
ニ於テ臨時検査ヲ受ク可シ

第六條 娼妓ハ検査ノ當日故ナク不参スルヲ許サス若シ己ムヲ得サ  
ル事故アルカ又ハ許可ヲ得テ他行中ナル中ハ其事由ヲ詳記シタル  
ル届書ヲ驅梅院又ハ検査場ニ差出スヘシ

第七條 娼妓若シ他ノ疾病ノ爲メニ検査當日出頭シ難キモノハ醫師  
ノ診断書ヲ添へ驅梅院若クハ検査場ニ届出スヘシ

第八條 第六條ノ事故解ケタル中又ハ歸宅ノ節或ハ第七條ノ病氣全  
癒ノ後ハ臨時検査ヲ受ク可シ尤モ此ノ検査ヲ了ラサル間ハ營業ス  
ルヲ許サス

第九條 第七條ノ場合ニ於テハ時宜ニヨリ検査醫員直ニ娼妓所在ノ  
家ニ臨ミ検査ヲ爲スコトアルヘシ

第十條 娼妓有毒ノモノヲ入院セシムル中ハ營業鑑札並ニ檢梅証ヲ  
驅梅院へ領置シ治愈退院ノ節之ヲ下附ス可シ

第十一條 娼妓廢業ヲ爲シトスル中ハ驅梅院又ハ検査場ニ於テ檢  
査ヲ受クヘシ若シ有毒ナル中ハ直ニ入院セシメ而シテ入院中ハ廢  
業ヲナスモ治愈半途ニシテ退院スルヲ許サス

第十二條 娼妓入院中ハ外出ヲ許サス若シ父母近親ノ病氣又ハ己ム



ヲ得サル事故アリテ一時出院セントスルハ醫師ノ診斷書若クハ  
其事由ヲ詳記シタル書面ヲ以テ驅梅院へ願出許可ヲ受ク可シ

但シ一泊以上ヲ要スルハ娼妓營業取締規則第九條ノ手續ヲ爲  
ス可シ

第拾三條 娼妓入院中ハ營業取締人ノ其事故ヲ記シタル書面ヲ以テ  
申出ツルニアラサルヨリハ一切他人ト面會スルヲ許サス

第拾四條 検査場ニ於テ検査ノ節ハ看病婦又ハ他ノ婦女一名ヲ附添  
ハシムヘシト雖モ其他ノモノハ検査室内へ入ラシム可カラス

第拾五條 検査ノ當日ハ營業取締人ノ内一名出場ニ検査員ノ指示ヲ  
受ケ諸般ノ幹旋ヲナスヘシ

第拾六條 檢梅証ヲ遺失毀損等ノ節ハ速ニ驅梅院へ届出其再渡ヲ請

フヘシ

第拾七條 檢梅上ニ係ル願届等ハ必ス營業取締人之ニ連署スヘシ

第拾八條 此規則ニ違背シタルモノハ三拾圓以内ノ過料又ハ六ヶ月  
以内ノ懲戒ニ處ス其狀情ニ依リ仍ホ娼妓營業ヲ停止又ハ禁止スル  
コアルヘシ

但第三條第四條第九條第拾條第拾四條第拾五條第拾七條ハ本文  
ノ限ニ非ス

第拾九條 過料ハ十日以内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ金貳  
拾五錢ヲ一日ニ折算シ懲戒ニ換フ其貳拾五錢ニ滿サル者モ仍ホ一  
日ニ折算ス

但懲戒ニ換フト雖モ其限内過料ヲ納メタル中ハ其經過シタル日

數ヲ控除シ懲戒ヲ免ス親屬其他ノ者代テ過料ヲ納タルモ亦全

●縣令第貳拾九號

明治十八年十月甲第廿九號布達娼妓梅毒検査規則第拾九條ノ次へ別紙ノ通り附則ヲ追加ス

但シ明治廿年二月一日ヨリ施行ス

附則

第壹 驅梅院ニ入院ヲ命シタル患者ハ營業取締人ニ於テ本人身上ニ

關スル一切事件ヲ辦理スヘキ旨ヲ記シタル引受証書ヲ差出ス

ヘシ

第貳 入院患者藥價食料其他ノ費用ニ充ルカタメ入院料トシテ一日

分金貳拾錢ヲ納ムヘシ

第三 入院料ハ每一週日分ヲ事務所へ前納スヘシ若シ一週日ニ滿タ

スシテ退院スルモハ其日數ヲ算シ殘餘ハ下戻スヘシ

第四 毎朝診察時間前ハ必ステ自室ニアリ各自ノ臥床ニ就キ醫員廻診ヲ俟ツヘシ

第五 藥用及賄ノ外ハ都テ醫員ノ許可ヲ請クルニアラサレハ飲食スルコトヲ許サス

第六 院内ニ於テ放歌シ又ハ高聲ニ談話シ或ハ書籍ヲ音讀スル事ヲ許サス

第七 院内ニ於テ金錢其他ノ物品ヲ貸借スル事ヲ許サス

第八 患者ハ自室ノ外猥リニ他人ノ室内ニ入り起臥飲食スルコトヲ許

サス

第九 親戚又ハ知友ト信書或ハ贈遺之物品ハ營業取締人ノ証書ヲ添フルニアラサレハ之ヲ入ル。ヲ許サス

但シ飲食物ハ醫員ニ於テ之ヲ許サレ。ヲアルヘシ

第十 患者ノ親戚等見舞トシテ來院スルカ又ハ要用アリテ營業取締人ノ証書ヲ持参シ面會ヲ請フモノアルハ他人ヲ妨ケサル様應接スヘシ

第十一 患者入院中ハ妄リニ他ノ治術又ハ處方ヲ施スヲ許サス

● 第卅四號十八年十一月九日

種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿壹年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナ

ルハ更ニ壹週年内ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルハ第一條第二條ノ期限ニ拘ラス掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受ク可キ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フ能サルハ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲナシタル証書ヲ添ヘ戶長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受シ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルハ之ヲ拒ムヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘証ヲ受領シ戶長役場ニ届出ヘシ

但シ天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其証ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 拾六歳未満ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等ハ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘証ヲ附與スヘシ

但シ天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタル中ハ本條ニ準シ其証ヲ附與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明載帳ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿

報告スヘシ

第十條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出スヘシ

●縣令第拾四號三月一日ヨリ施行廿年一月廿四日

屠畜營業取締規則

第一條 屠畜營業ヲサントスルモノハ郊外便宜ノ地ヲ撰ミ第一號式ノ願書ニ人家道路河泉等ノ距離ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ地元戶長及郡長ヲ經テ出願許可ヲ受クヘシ

但シ血液内臟其他ノ棄廢物ヲ埋却セントスル中ハ本文ニ準シ許可ヲ受クヘシ

第二條 屠場ニハ必ス外圍ヲ設ケ第一號式ノ標札ヲ掲ケ置クヘシ

第三條 屠場ハ專ツ清潔ヲ旨トシ屠殺ノ都度速ニ掃除シ血液内臓其  
他ノ廢棄物ヲ肥料ノタメ一時貯藏スルハ堅牢ナル溜壺等ニ容レ  
之ヲ密閉シ臭氣ノ飛散ヲ拒クヘシ

第四條 屠殺ヲナサントスルハ第三號式ニ準シ前日迄ニ所轄警察  
署又ハ分署若クハ交番所ニ届出監檢ヲ乞フ可シ

第五條 監檢官ニ於テ屠殺スヘキ畜類ニ疾病又ハ其他ノ故障アリ  
テ屠殺スヘカラスト認ムルハ一時之ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 屠畜營業人ハ屠畜ヲ買入レタル都度其賣主ノ住所氏名及畜  
類ノ種別牝牝毛色頭數其月日ヲ記載シ三日以内ニ所轄警察署又ハ  
分署若クハ交番所ヘ届出ヘシ

第七條 屠殺スル畜類ハ營業人ニ於テ買入レノ後少ナクモ五日以上

飼養シタルモノニ限ル可シ

第八條 屠場内ニハ疾病アル畜類ヲ牽キ入ル可カラズ若シ飼養中疾  
病ニ罹ルモノアルハ速ニ之ヲ隔離スヘシ

第九條 屠畜場ニ於テハ斃畜ノ剖割ヲ爲スコトヲ許サズ

第十條 屠畜肉ハ其毎片ニ監檢官ノ檢印(第四號式)ヲ請ケタル後ニ

アラサレハ販賣受授スルコトヲ得ス

第十條 屠畜肉販賣者ニ卸賣ヲナスハ其住所姓名及肉ノ斤量ヲ

其都度詳悉帖簿ニ記載シ置クヘシ

第十條 本則第五條ヲ除キ此規則ニ違背レタルモノハ刑法第四百

廿六條第四項ニヨリ罰セラルヘシ

●縣令第十九號廿年一月廿四日

屠畜肉販賣取締規則

第一條 屠畜肉ヲ卸賣小賣又ハ行商セント欲スルモノハ所轄警察署  
又ハ分署若クハ交番所ヘ届出ヘシ

第二條 屠畜肉ハ屠畜免許人ノ屠殺シタル檢印濟ノ者ニアラサレハ  
一切販賣スルヲ許サス

第三條 屠畜肉ヲ店頭ニ排列シ又ハ行商スルキハ麻布綿布ノ類ヲ以  
テ之ヲ覆ヒ蚊蠅等ノ蟻集ヲ拒ク可シ

第四條 屠畜肉販賣中ハ其毎片檢印アル部分ハ其一片ヲ賣了スルニ  
至ル迄存置スヘシ

第五條 檢査印アル屠畜肉ト雖モ警察署ニ於テ臨時之ヲ檢査シ若シ  
食物ニ適セスト認ムルキハ其販賣ヲ停止シ現品ヲ棄却セシムルヲ

アルヘシ

第六條 屠畜肉卸賣小賣又ハ行商人ト雖モ買入元帳及ヒ賣拂帳ヲ製  
シ元帳ニハ賣主住處氏名及買入月日斤量ヲ記シ賣拂帳ハ賣却斤量  
及ヒ其月日ヲ記載シ置クヘシ

第七條 他府縣免許ノ營業人ヨリ買請販賣セントスルキハ其營業人  
ノ住處姓名ヲ處轄警察署又ハ分署ニ届置キ其肉ハ買請ケノ都度檢  
印(屠畜營業取締規則第  
四號烙印式ニ依ル)ヲ受クルニアラサレハ販賣スルヲ得ス

第八條 本則第一條第二條第三條第四條第六條第七條ニ違犯シタル  
者ハ刑法第四百二十六條第四項ニヨリ罰セラルヘシ

斃畜剖割取締規則

第一條 斃畜ハ許可ヲ得タル獸畜埋焼却場又ハ本則ニヨリ許可ヲ得

タル場所ニアラサレハ之ヲ剖削スルヲ許サス

第貳條 斃畜剖削場ヲ設ケントスルハ人家道路及ヒ河泉等ヲ離レタル地ヲ撰ミ第一號式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ地元戸長及ヒ郡長ヲ經テ出願許可ヲ請フヘシ

第三條 斃畜剖削場ニハ第二號式ノ標杭ヲ建設スヘシ

第四條 傳染病ニ罹リ斃死シタル畜類ハ剖削スルヲ許サス

第五條 斃畜ノ肉ハ食用トナス可カラズ

第六條 斃畜ノ剖削ヲ爲サントスルハ其處有主ノ姓名及ヒ剖削ノ時日場所ヲ記シ戸長役場及ヒ所轄警察署又ハ分署若クハ交番所ニ届出ヘシ

第七條 剖削場ハ勉メテ清潔ヲ旨トシ筋肉骨骼臟器等其他ノ棄廢物

ハ剖削ノ都度速カニ獸畜埋瘞地ニ埋却スヘシ若シ肥料ノ爲メ貯藏スルハ堅牢ナル溜壺ニ容レ適當ノ覆蓋ヲ設ケ可成臭氣ノ飛散ヲ拒クヘシ

第八條 剖削場ハ警察官又ハ町村吏便宜臨檢スルコトアルヘシ

第九條 本則第一條第四條第五條第六條第七條ニ違犯スル者ハ刑法

第四百廿六條第四項ニヨリ罰セララルヘシ

牛乳營業取締規則

第一條 牛乳ヲ搾取リ販賣セントスルモノハ第一號式ノ願書ニ畜場搾乳場ト四隣人家ノ距離ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ地元戸長及ヒ郡長ヲ經テ出願許可ヲ受クヘシ

第二條 牛乳營業人ハ第二號式ノ標札ヲ其門戸ニ掲ケ置クヘシ

第三條 搾乳場ハ専ラ清潔ヲ旨トシ搾乳ノ都度掃除シ汚物塵埃ノ推積セザル様注意スヘシ最モ畜場ト搾場ト相兼ルヲ得ス

第四條 若シ畜場内ニ於テ疾病ニ罹ル牛アルキハ速ニ他ニ隔離シ決シテ混合畜養スヘカラス

第五條 乳牛ハ体格強壯性質温和且ツ其系統善良ニシテ血液ニ毒質ヲ遺殘スヘキ疾病ニ罹リタルノ兆ナキ者ヲ撰用スヘシ

第六條 乳牛ハ每頭番號ヲ付シ第三號式ニ依テ所轄警察署亦ハ分署ニ届出スヘシ

但シ増減アルキモ又本文ニ準ス

第七條 乳牛若シ疾病ニ罹リタルキハ其發病全癒トモ直テニ所轄警察署又ハ分署ニ届出スヘシ

第八條 乳牛ノ飼料ハ大麥裸麥等可成澱粉質ノ多キ者ヲ撰用スヘシ

第九條 牛乳ヲ搾取スルキハ必ス乳房ヲ洗滌シ汚濕ヲ拭ヒ取り汚物

ノ乳中ニ混入セサル様處置シ尙ホ搾リタル乳汁ハ清潔ナル麻布等ヲ以テ濾過スヘシ

第十條 左ノ各項ニ係ルモノハ販賣又ハ採受スルコトヲ許サス

一 乳牛分娩後二週間ヲ經サル内搾取シタル乳汁

一 疾病又ハ其疑アル牛ノ乳汁

一 狂病犬ノ咬傷ヲ受ケ全癒一ヶ月ヲ經サルモノ。乳汁

一 血液膿汁又ハ腐敗乳若クハ水其他異物ヲ混シタル乳汁

一 乳酪ヲ收取シタル乳汁

一 一日以上ヲ隔テ、搾取シタル初度ノ乳汁



一變敗ヲ防止スルタメ藥品ヲ混シタル乳汁

第拾一條 牛乳ヲ運搬販賣スルルハ第四號式ノ木札ニ所轄警察署ノ  
檢印ヲ受ケ容器又ハ他ノ看易キ場所ヘ附ケ置クヘシ

第拾二條 牛乳ノ容器ハ銅質鉛質等ノ者又ハ蓋ナキモノヲ用ユヘカ  
ラス

第拾三條 傳染病者アル家ニハ乳器ヲ留置キ又ハ自他ノ器物ヲ混同  
觸接セシム可カラズ

第拾四條 係官吏ハ臨時搾取場ヲ監視シ又ハ乳質檢査ノ爲メ營業人  
若クハ行商人ヨリ乳汁ヲ徵スルコトアルヘシ

第十五條 本則第一條第三條第四條第五條第六條第七條第九條第十  
條第十一條第十二條第十三條ニ違犯シタル者ハ刑法四百二十六條

第四項ニヨリ罰セラルヘシ

●甲第百五拾五號十七年九月十五日

獸畜埋瘞及ヒ燒棄場設置方左之通相定ム

右布達候事

第壹條 從來埋瘞及燒棄場ノ設ケナキ向ハ共用ノ場所ヲ撰定シ其地  
名地目反別等ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ町村總代二名以上及ヒ衛生委員  
連署ノ上來ル十月卅日限リ出願ス可シ

但シ壹町村以上各壹個處ニ限ル若シ不止得事故アリテ貳個以上  
ノ設置ヲ要スルルハ其事由ヲ詳記ス可シ

第貳條 願書ヘ添付スル圖面ハ四隣ノ地形等ヲ明瞭ニシ各々着色區  
分スヘシ

第三條 新築場處ハ可成荒蕪不毛又ハ山林等薄税ノ地ニテ三畝步以下タル可シ

但シ耕地等へ設置ヲ要スル場合又ハ不止得シテ官地ヲ要スルキハ其事由ヲ詳記シ出願及ヒ官地拂下ノ手續ヲナス可シ

第四條 人家及ヒ井泉河湍等ニ接近シ總テ衛生上ノ障害トナル場處ハ之ヲ設ク可ラス

但シ在來ノ場處ト雖モ本條ニ抵觸スルモノハ改設ス可シ

第五條 已設新設ヲ間ス總テ埋瘞場ハ傳染病死ト通常病死ト區域ヲ立ツ可シ

第六條 設置場外ニ於テ埋瘞又ハ燐棄スル者ハ刑法違警罪ニ依リ之ヲ處分セララルヘシ

●明治廿年一月廿四日縣令第廿貳號

製氷積雪販賣取締規則

第一條 氷ヲ製造シテ販賣セント欲スルモノハ第四條ニ掲ケル各項ノ取調書及ヒ現況ヲ記シタル圖面ヲ添へ願出可シ

第二條 河川等ノ天然氷又ハ積雪ヲ貯藏シテ販賣セント欲スルモノモ亦第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 器械藥品ヲ以テ製造スルモノハ其器械ノ裝置藥品ノ種類及ヒ製造方法書ニ用水凡三升ヲ添へ出願檢査ヲ受ク可シ

第四條 第一條第二條ノ製氷及ヒ積雪採收ハ左ノ各項ニ觸レサル場合ニ限ル可シ

一製氷ノ源流及ヒ製造ノ位地ハ道路埋火葬場芥溜溝渠下水等ニ隔

絶シテ汚物混入ノ患ナキ場所タル可シ

一 結氷積雪ヲ採收スルノ位地モ亦前項ニ同シ

一 製氷積雪ヲ貯藏スルハ清潔ナル倉庫又ハ窖穴等ノ汚物混入ノ患ナキ場所タル可シ

第五條 第一條第貳條ノ願出アルキハ郡役所ニ於テハ吏員ヲ實地ニ派遣シ第四條各項ノ當否ヲ検査シ詳細添申ス可シ

第六條 製造場及ヒ貯藏場ヘハ時々係官吏ヲ派遣シ若シ汚物ノ混入スルカ又ハ不潔ノ製造ト認ルキハ其製造貯藏ヲ差止メ現品ハ投棄セシムルコトアルヘシ

第七條 貯藏ノ氷雪ヲ發賣セントスルキハ其期ニ際シ現品量目凡ソニ最前許可ノ指令寫ヲ添ヘ出願許可ヲ請ク可シ

但シ氷雪ハ清潔ナル瓶又ハ箱ニ入レ溶解セサル様装置ス可シ

第八條 他府縣下ニ於テ製造貯蓄スル氷雪ヲ管下ニ於テ發賣セントスルキハ製造貯藏人ノ許可ヲ得タル指令寫ヲ添ヘ第七條ノ手續ヲ爲ス可シ

第九條 試験ノ上性質善良ニシテ食用ニ害ナシト認ルキハ別紙第壹號式ノ發賣免許証ヲ附與スヘシ

第十條 氷雪販賣ノ許可ヲ得タルモノハ別紙第貳號式ノ標札ニ免許証寫ヲ添ヘ所轄警察署ニ届出標札ニ檢印ヲ受ケ其門戸ニ表示スヘシ

第十壹條 發賣許可ノ氷雪ヲ請賣セントスルキハ營業人連署ノ届書發賣許可ニ別紙第三號式ノ標札ヲ添ヘ所轄警察署ニ差出シ檢印ヲ請寫ヲ添フ

ケ店頭ニ表示ス可シ

第拾貳條 營業人又ハ請賣者自ラ行商シ若シクハ雇人ヲシテ行商セシメントスルキハ其旨所轄警察署ニ届出別紙第四號式ノ木標ニ檢印ヲ請ケ其荷桶等ノ看易キ場所ニ表示スヘシ

第拾三條 氷雪ヲ運搬若クハ販賣スルキハ清潔ナル桶又ハ瓶等ニ入レ汚穢物ノ混入セサル様装置スヘシ

第拾四條 係官吏ハ時々氷雪販賣所ニ臨檢シ或ハ行商人コ對シ品質檢査ノ爲メ現品ヲ徵スルコトアルヘシ

但此場合ニ於テ容器又ハ取扱ノ不適當ニシテ汚物ノ混入シタルコトアリト認ルキハ其販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

第拾五條 發賣期ノ檢査ヲ經サル前ニ於テ醫療用ノ爲メ醫師ノ請求

アルキハ賣渡スコトヲ得

但シ本文ノ場合ニ於テ賣渡シタルキハ量目年月日住處ヲ記シタル証書ヲ請取置可シ

第拾六條 本則許可ノ効ハ前年十一月ヨリ翌年十月迄一ケ年限トス滿期ニ至レハ免許証ヲ返納シ標札又ハ木標ハ消印ヲ請フ可シ

第拾七條 本則第一條第二條第三條第四條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十五條第十六條ニ違背シタルモノハ刑法違警罪第四百廿六條第四項ニヨリ罰セラルヘシ